取扱説明書（本体編）

もくじ

ご使用になる前に 3

はじめに 2

安全にご利用になるために 3

製品仕様 6

構成部品の紹介 8

各部の名称と働き 15

電源の供給方法について 19

充電について 22

OSのアップデートについて 24

G-scan の基本操作 27

画面構成 28

保存データ 34

OBD-II 診断 37

本体設定 40

ユーザーガイド 51

分析モード 54

診断の準備 56

車両と接続します 57

電源のON/OFF 60

車種、システムを選択します 62

診断機能 66

自己診断機能 67

データ表示機能 76
保存データ表示機能 91
アクティブテスト機能 101
作業サポート機能 104
識別情報表示機能 105
消耗品の交換方法 106
シガライタ電源ケーブル 107

ご使用になる前に

はじめに 2

安全にご利用になるために 3

製品仕様 6

構成部品の紹介 8

各部の名称と働き 15

電源の供給方法について 19

充電について 22

OSのアップデートについて 24

はじめに

ご使用になる前に

本取扱説明書では、G-scan 本体の使用方法に関してご説明させていただきます。G-scan をご使用の前に本取扱説明書をよくお読みのいただき、正しく安全にお使いください。各メーカー独自の機能につきましては、メーカー別の取扱説明書をご覧ください。

株式会社インターサポート

安全にご利用になるために

ご使用になる前に

■ 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。

■ 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

	警告 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

	注意 この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。
以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。

警告

- 万一、煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態が見られる場合は、すぐに電源を切り、感電や火傷に注意しながらバッテリーパックを速やかに使用をやめてください。車両のシガライターソケット、バッテリー端子、または診断コネクターから電源を供給している場合は、必ず電源（シガライター）プラグをソケット、バッテリー端子からワニ口クリップを、または接続した診断コネクターを車両から取り外してください。火災や感電の原因となります。
- G-scan 本体を分解または改造しないでください。また、ご利用の際は、指定された付属品のみをご利用ください。
- G-scan 本体を濡らさないでください。また、濡れた手で操作しないでください。感電の原因となります。
- 異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。感電や火災の原因となります。すぐに電源を切り、感電や火傷に注意しながら速やかにバッテリーパックを取り外してください。車両のシガライターソケット、バッテリー端子、または診断コネクターから電源を供給している場合は、必ず電源（シガライター）プラグをソケット、バッテリー端子からワニ口クリップを、または接続した診断コネクターを車両から取り外してください。火災や感電の原因となります。
- LCD（液晶画面）が破損した場合、中の液晶には十分ご注意ください。万一、目に入ったり皮膚に付着たりした場合は、すぐに水で洗い流してください。
- バッテリーパックの液漏れ、発熱、発火、破損防止のため次のことをお守りください。
  - G-scan 本体で指定しているバッテリーパック以外は、使用しないでください。
  - バッテリーパックを水の中へ落としたり、濡らしたりしないように注意してください。
  - バッテリーパックは火の中に入れたり、ショート、分解、加熱したりしないでください。
  - バッテリーパックが異臭、発熱、変形、変色等の異常な兆しをみせた場合、使用をやめてください。

注意

- G-scan 本体を不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いたところ等、固定できない場所）に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてケガをする恐れがあります。
- G-scan を湿気やほこりの多い場所に置かないでください。感電や火災の恐れがあります。
- タッチ画面をご利用になるときは、付属のタッチペンをご利用ください。付属のタッチペン以外の先端が固くとがった物でタッチするとタッチパネル及び液晶画面が破損する恐れがあります。

製品仕様

ご使用になる前に

G-scan 本体

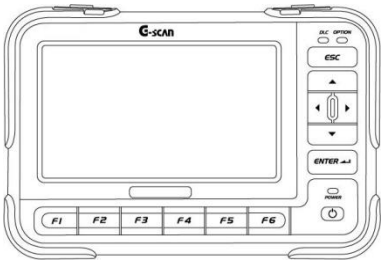
項目		仕様
CPU		ARM9(400MHz)/ARM9(266MHz) デュアルＣＰＵ
メモリ		NOR フラッシュメモリ 16MB
		NAND フラッシュメモリ 64MB
		SDRAM メモリ 32MB×2
外部メモリ		4GB ＳＤカード※SD カードは純正品をお使いください
温度範囲	動作時	0℃～45℃ ： 電池充電時
		0℃～50℃ ： 電池放電時
	保管時	-10℃～70℃
相対湿度	動作時	結露無し 0℃～10℃
		90%RH 10℃～30℃
		70%RH 30℃～50℃
	保管時	結露無し -10℃～70℃
ディスプレイ		5.6 インチ TFT LCD (480×234pixel)
入力操作部		タッチパネル, 電源 ON/OFF ボタン, ENTER ボタン, ESC ボタン,↑,↓,←,→ボタン, F1～F6 ボタン
外部電源供給表示灯		2 色 LED×3(Power, DLC, Option)
ブザー		1 トーン
電池		Li-Ion Polymer 2100mAh 1cell
動作電圧		7～35V DC
ケース材質		PC+ABS & TPE シュラウド
外形寸法		194（W）×129（H）×59（D）mm
重量		約 900g
PC インターフェース		USB Host, USB Slave
車両インターフェース（CAN）		ISO-11898, ISO-11519, SAE-J2411
車両インターフェース（K-Line/L-Line）		ISO-9141, ISO-9141-CARB, KWP-2000, SAE-J1850
商用車用途インターフェース		SAE-J1708, RS-232C
メーカー専用インターフェース		Melco Pull-Down UART

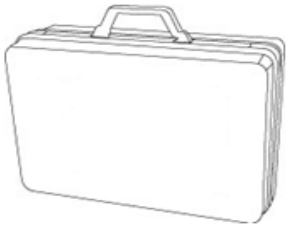
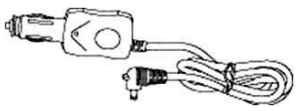
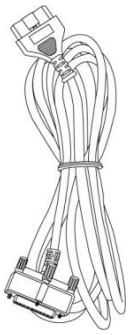
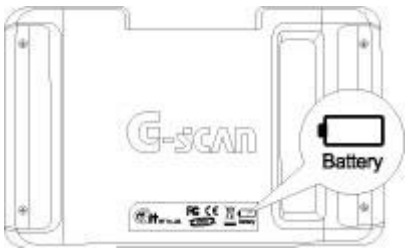
AC/DC アダプター※オプション品

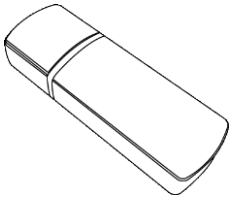
項目	仕様
入力電圧	100～240V AC （50/60Hz）
入力電流	1.4A
出力電圧	12V DC
出力電流	5A

構成部品の紹介

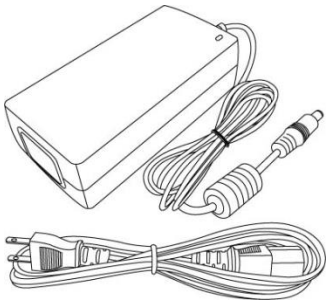
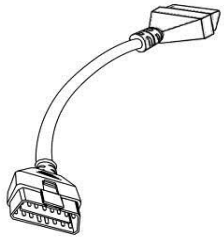
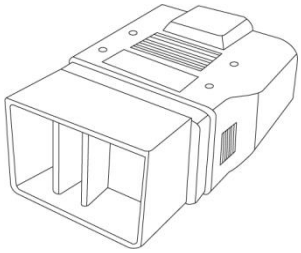
ご使用になる前に

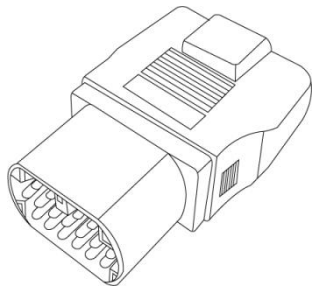
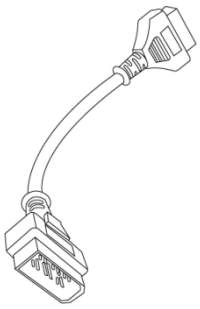
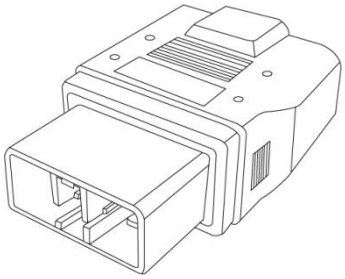
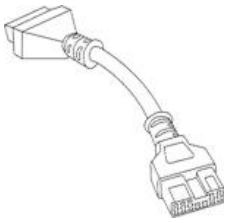
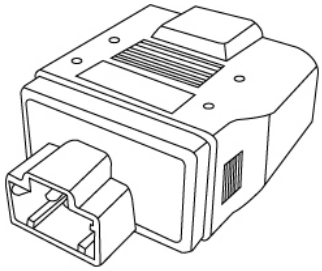
外観	品名
	・ 部品名： G-scan
	・ 部品名： タッチペン
	・ 部品名： ストリング
	・ 部品名： ハンドストラップ

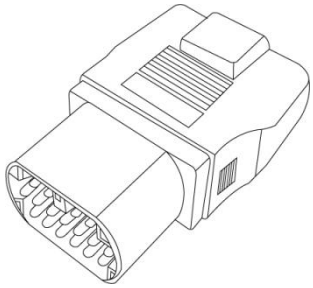
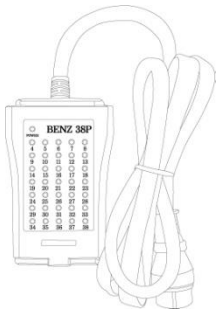
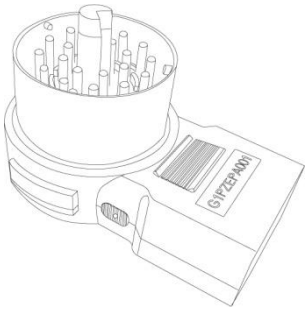
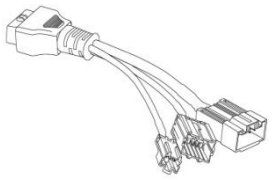
外観	品名
	・ 部品名： PC ユーティリティーソフト CD
	・ 部品名： 収納ケース
	・ 部品名： シガライター電源ケーブル
	・ 部品名： DLC メインケーブル
	・ 部品名： バッテリーパック

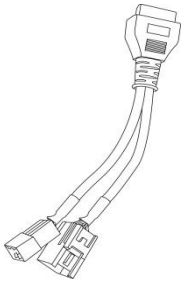
外観	品名
	・ 部品名： SD カード
	・ 部品名： SD カードリーダー

オプション別売品

外観	品名
	・ 部品名： バッテリーケーブル
	・ 部品名： AC/DC アダプター
	・ 部品名： 本体セルフテスト用カプラ
	・ 部品名：TOYOTA 17PS（トヨタカプラ(角型)）

外観	品名
	・ 部品名：TOYOTA 17PR（トヨタカプラ(丸型)）
	・ 部品名： NISSAN 14P（日産カプラ）
	・ 部品名： SUBARU 9P（スバルカプラ）
	・ 部品名： MITSUBISHI 12P（三菱カプラ）
	・ 部品名： HONDA 3P（ホンダカプラ）

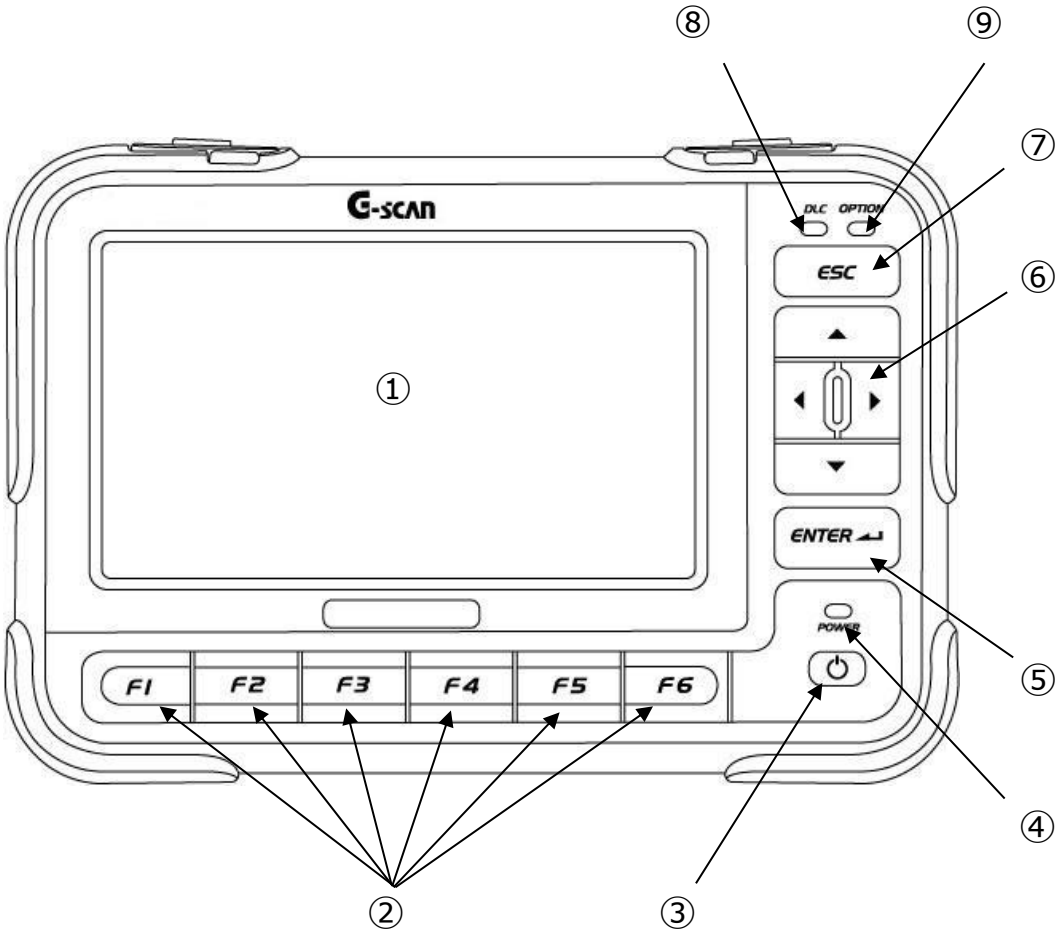
外観	品名
	・ 部品名： MAZDA 17P（マツダカプラ）
	・ 部品名： BENZ 38P（BENZ カプラ(38Pin)）
	・ 部品名：BMW 20P（BMW カプラ）
	・ 部品名： AUDI/VW 4P（AUDI/VW カプラ）
	・ 部品名： ISUZU 3/10/20P（いすゞカプラ）

外観	品名
	・ 部品名： BENZ 14P（BENZ カプラ(14Pin)）
	・ 部品名： 日野カプラ
	・ 部品名： モバイルプリンター

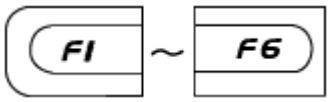
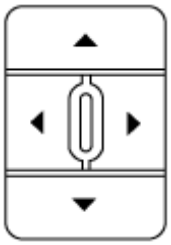
各部の名称と働き

ご使用になる前に

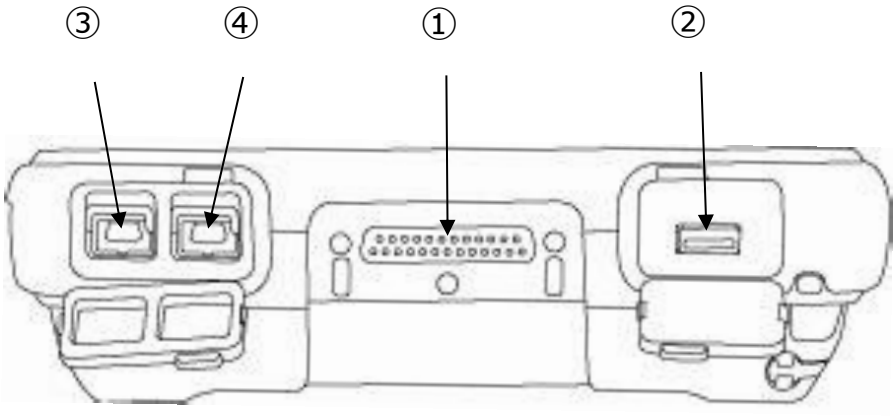
タッチ画面とハードウェアボタン



〈図：G-scan 正面〉

①	タッチ画面	画面上の機能やボタンを選択する際に使用します。
②		画面上の機能ボタンを操作するためのボタンです。
③		電源の ON/OFF に使用します。
④		G-scan の電源供給状態を表しています。
⑤		選択した項目や機能を実行する際や、選択を決定する際に使用します。
⑥		画面で選びたいアイテムや機能にカーソルを合わせるときに使用します。
⑦		一つ前の画面に戻る際や、表示されている画面を消す際に使用します。
⑧		各 ECU との通信状態を表しています。 通信時：点滅　　非通信時：消灯
⑨		オプション装備との通信状態を表しています。 ※（現在は使用しません）

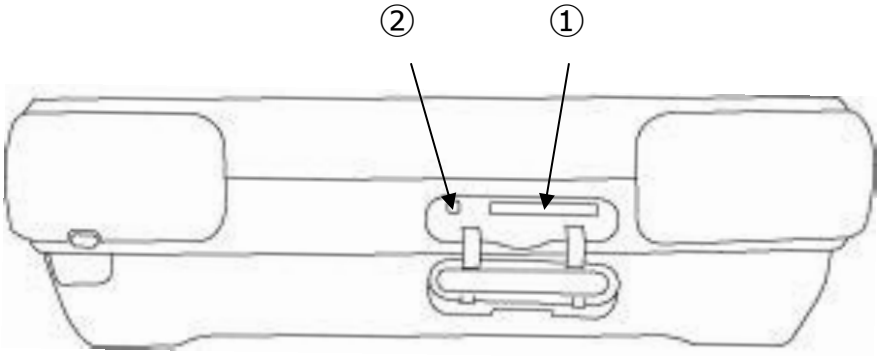
通信コネクター部と COM ポート部



〈図：G-scan 上部〉

①	DLC	ＤＬＣメインケーブルを接続するためのコネクターです。
②	OPTION	モバイルプリンターを接続するための USB ポートです。
③	DOWNLOAD	機能を拡張するために用意されている USB ポートです。 ※（現在は使用しません）
④	PASS-THRU	機能を拡張するために用意されている USB ポートです。 ※（現在は使用しません）

SD カード挿入口とリセットボタン



〈図：G-scan 下部〉

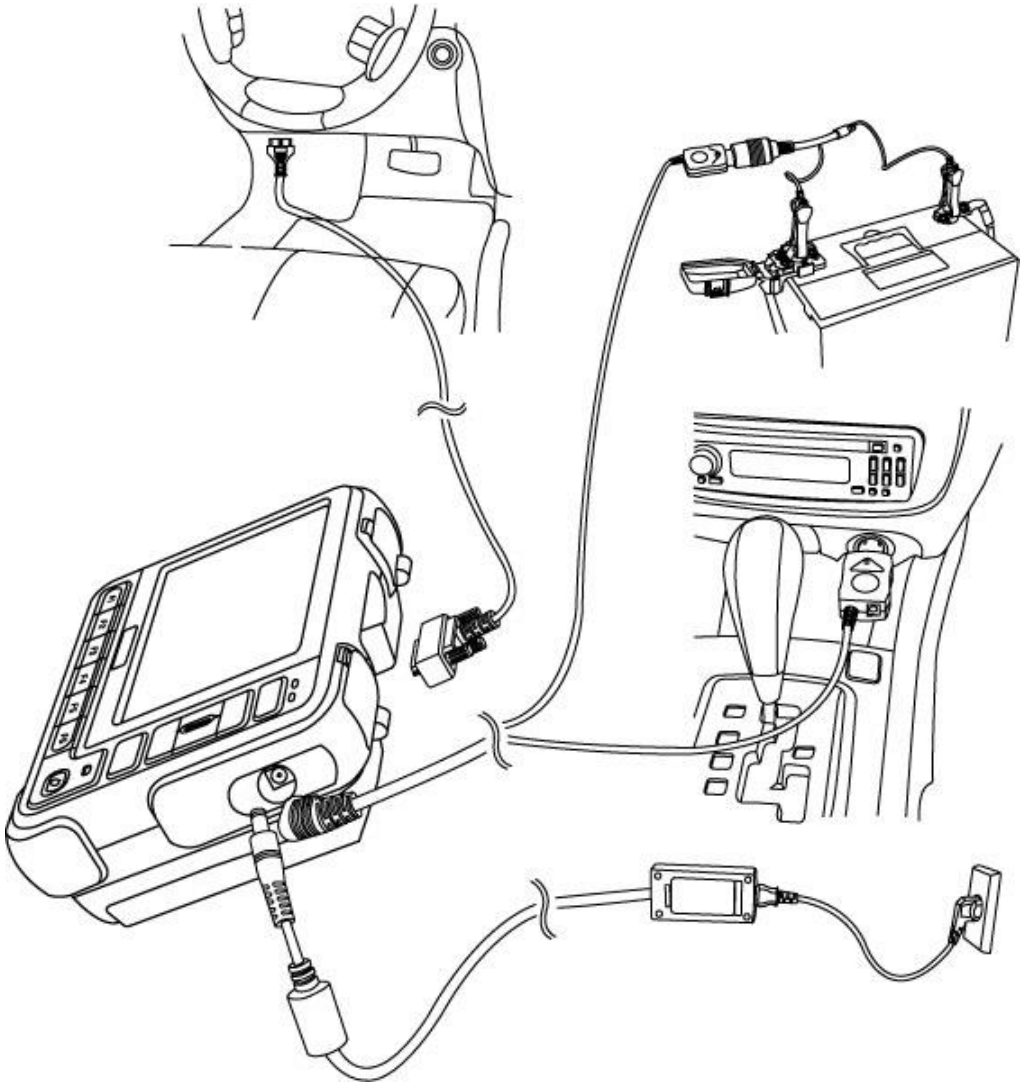
①	SD カード挿入口	SD カードを挿入する場所です。 ※SD カードは純正品をお使いください
②	リセットボタン	G-scan にエラーが発生した際、リセットボタンを押すことで 強制的に電源を OFF することができます。

電源の供給方法について

ご使用になる前に

G-scan に電源を供給する方法としては、以下の 4 通りの方法があります。

- 車両の診断コネクターから電源を供給する方法
- シガライターから電源を供給する方法
- バッテリーから電源を供給する方法
- 家庭用電源コンセントから電源を供給する方法



〈図：G-scan への電源の供給方法〉

車両の診断コネクターから電源を供給する方法

1. G-scan を車両の診断コネクターに接続します。
2. 車両の IG SW を ACC または、ON にして G-scan へ電源を供給します。

シガライターから電源を供給する方法

1. G-scan の DC 電源入力端子部にシガライター電源ケーブルを接続します。
2. 車両のシガライターソケットにシガライター電源ケーブルの電源プラグを差し込みます。
3. 車両の IG SW を ACC または、ON にして G-scan へ電源を供給します。

注意

シガライターソケット内の汚れによる接触不良に、十分ご注意ください。

バッテリから電源を供給する方法

1. G-scan の DC 電源入力端子部にシガライター電源ケーブルを接続します。
2. バッテリーケーブルのシガライターソケット部にシガライター電源ケーブルの電源プラグを差し込みます。
3. 車両に搭載されているバッテリーの＋極にバッテリケーブルの赤いワニ口クリップを、バッテリーの－極にバッテリーケーブルの黒いワニ口クリップを、それぞれ間違わないように十分注意しながら取り付けてください。
4. 車両の IG SW を ACC または、ON にして G-scan へ電源を供給します。

注意

バッテリーケーブルをバッテリーに接続する際、＋極、－極を逆接続しないでください。
＋極、－極の接続を間違うと G-scan が破損する恐れがあります。

家庭用電源コンセントから電源を供給する方法

1. G-scan の DC 電源入力端子部に AC/DC アダプターを接続します。
2. AC/DC アダプターのコンセント部を、家庭用コンセントに接続してください。
3. G-scan へ電源が供給されます。

注意

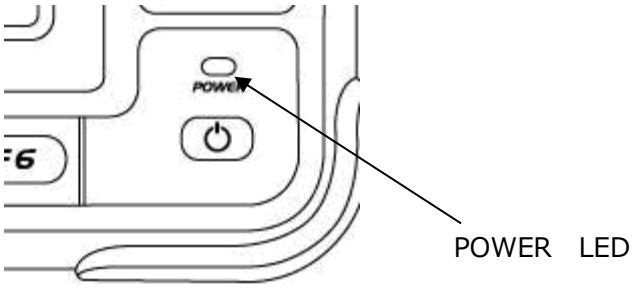
AC/DC アダプターは、必ず G-scan 付属の AC/DC アダプターを使用してください。

充電について

ご使用になる前に

G-scan には専用のバッテリーパックが装備されており、バッテリーパックに充電することにより、外部から電源を供給しない状態でも、車両診断以外の機能を使用することが可能です。

1) G-scan の DC 電源入力端子部に AC/DC アダプターを接続します。
2) AC/DC アダプターのコンセント部を、家庭用コンセントに接続してください。
3) 充電中は G-scan 本体の POWER LED が赤色に点灯します。充電が完了すると、POWER LED は赤色から緑色に変わります。



〈図：POWER LED の位置〉

- POWER LED の点灯状態

充電中	充電完了
LED (赤) 点灯	LED (緑) 点灯

※充電完了までに要する時間は約 3 時間です。

警告

上記のメッセージは、電池残量が少なくなっていることを警告したメッセージです。

この表示が出たら、速やかに外部からの電源を供給してください。

上記のメッセージを無視し作業を続行した場合、G-scan の電源は自動的に切れます。

OS のアップデートについて

ご使用になる前に

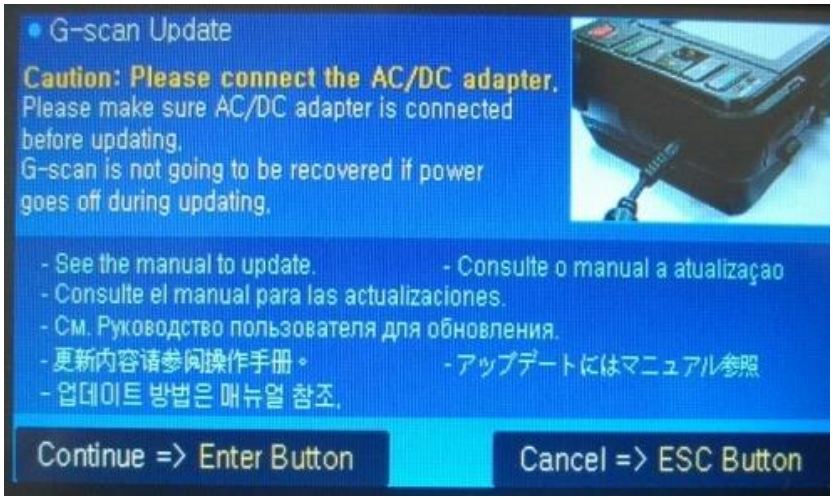
G-scan を最新の状態でお使いいただくには、ソフトウェアのバージョンアップ、G-scan 本体の OS をバージョンアップが必要になる場合があります。

1) G-scan 本体に、付属の AC/DC アダプター、またはシガライター電源ケーブル等をつないで外部電源を必ず供給してください。その際、POWERが点灯していることを必ず確認してください。

〈図：G-scan 外部電源供給〉

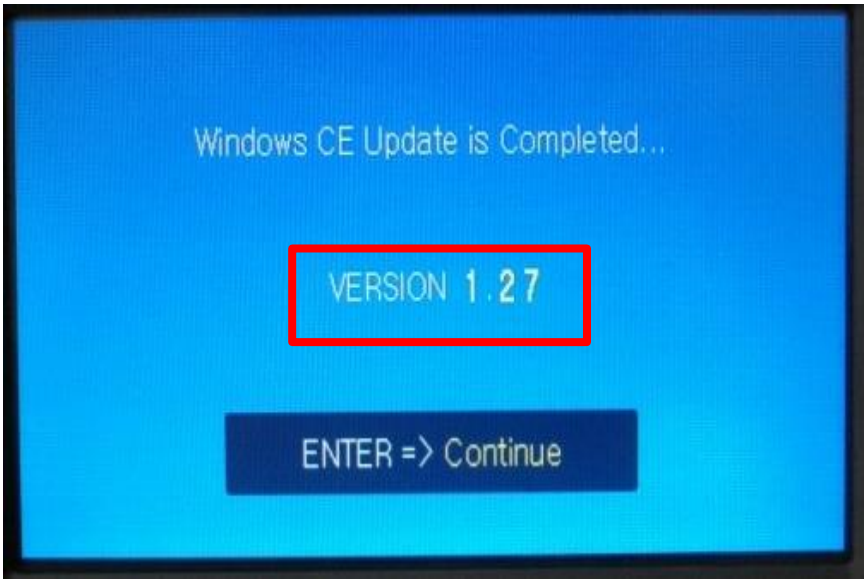
2) F3と F4を押しながら⏻を押して、電源を ON にしてください。
OS バージョンアップ用の画面が立ち上がったら、ENTERを押してください。OS のバージョンアップが始まります。

※バージョンアップ中は、電源を切ったりアダプターを外したりしないでください。故障の原因となります。



〈図：G-scan OS アップデート開始画面〉

3)　OS のバージョンアップが終わったら、ENTER を押してください。

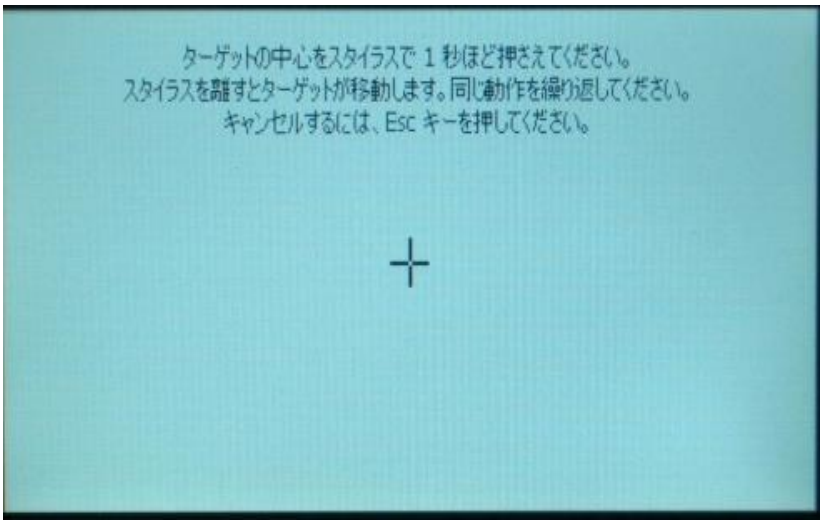


〈図：G-scan OS アップデート完了画面〉

※注意と補足※

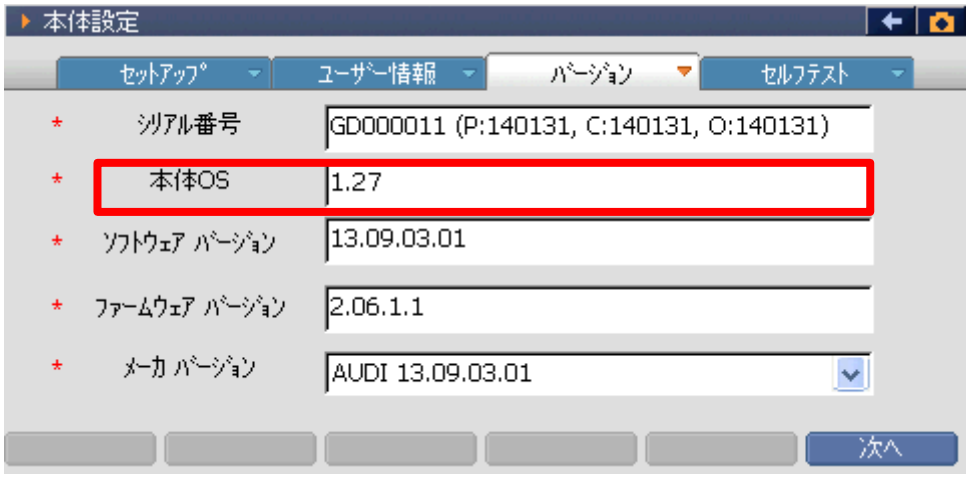
画面は本体 OS のバージョンを 1.27 へアップデートした画面です。

4)　タッチ位置調整画面が表示されるので、調整後 ENTER を押してください。



〈図：G-scan　タッチ位置調整画面〉

5) 本体設定から「バージョンタグ」を選択し、「本体 OS」のバージョンを確認してください。本体 OS が 3) に表示されたバージョンになっていれば OS のバージョンアップは終了です。



〈図：G-scan バージョン画面〉

G-scan の基本操作

画面構成 28

保存データ 34

OBD-II 診断..... 37

本体設定 40

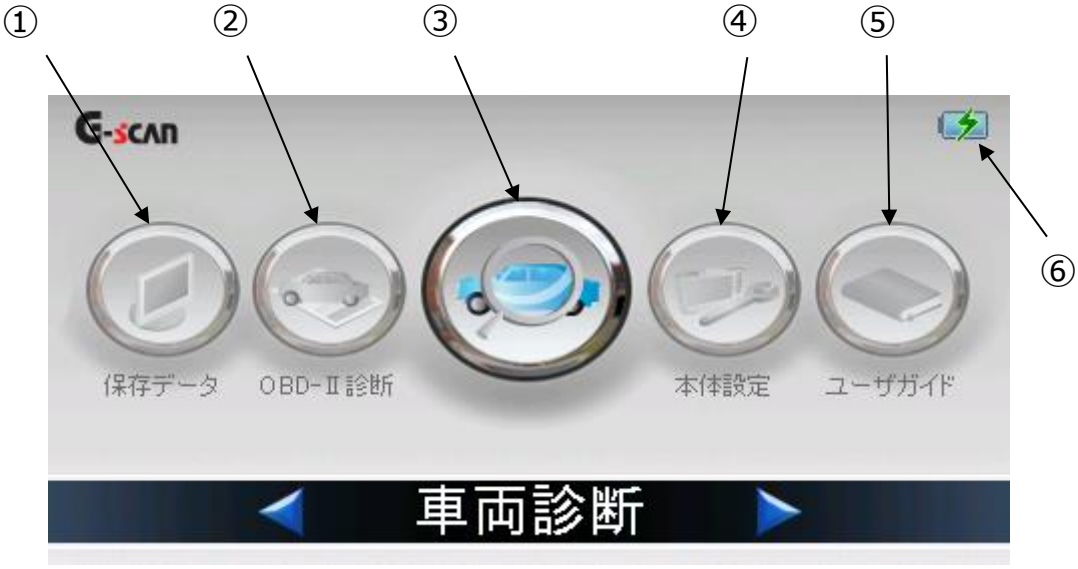
ユーザーガイド..... 51

分析モード 54

画面構成

G-scan の基本操作

メイン画面について



〈図：G-scan メイン画面〉

①	保存データ	データ記録等で保存したデータを閲覧する際に使用します。 【詳細は P34 を参照】
②	OBD-Ⅱ診断	OBD-Ⅱ診断を行う際に使用します。 【詳細は P37 を参照】
③	車両診断	車両診断を行う際に使用します。
④	本体設定	本体機能の設定を行う際に使用します。 【詳細は P40 を参照】
⑤	ユーザーガイド	ユーザーガイドを表示します。 【詳細は P51 を参照】

⑥		充電中の表示です。
		充電完了の表示です。
		電池残量の表示です。
		電池残量がありません。

※注意と補足※

充電機能の詳細に関しては P.19『電源の供給方法について』をご覧ください。

バックボタン、カメラボタン、ペイントボタンとプリントボタンについて

〈図：カメラボタン、バックボタン、ペイントボタンとプリントボタンの詳細〉

	バックボタン 一つ前の画面に戻る際に使用します。 esc ボタンと同様の機能です。
	カメラボタン 表示画面を保存する際に使用します。 保存した画面データは BMP（ビットマップ）形式で SD カードに保存されます。 【詳細は P.31『カメラボタンについて』を参照】
	ペイントボタン 表示画面に文字を書く際に使用します。 ボタンと esc ボタンで元に戻ります。 【詳細は P.32『ペイントボタンについて』を参照】
	プリントボタン 表示画面を印刷する際に使用します。 【詳細は P.33『プリントボタンについて』を参照】

■カメラボタンについて

1） 画面右上の ボタンをタッチすることで、診断中の画面をハードコピーすることができます。

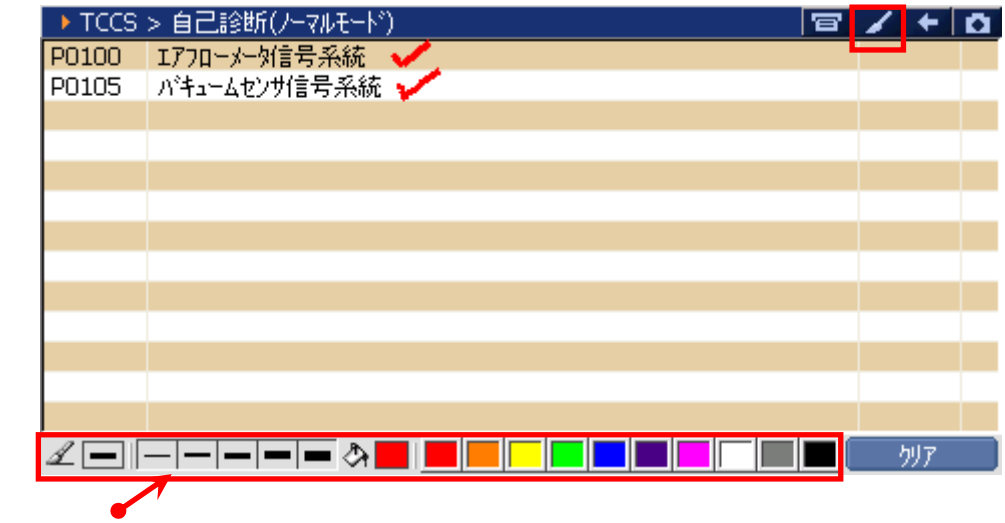
〈図：カメラボタンの位置〉

〈図：表示画面の保存〉

■ペイントボタンについて

1)　画面右上の ボタンをタッチすることで、診断中の画面に文字を書くことができます。　下記のツールバーより線の太さ、色を選択することができます。

文字を書いた後、表示画面をカメラボタン機能により保存することができます。



ペイントツールバー　　〈図：ペイント画面〉

2)　画面右下の ボタンをタッチすることで、画面に書いた文字を消すことができます。書いた文字はすべて消去されてしまいますのでご注意ください。

〈図：ペイント文字クリア後画面〉

■プリントボタンについて

プリンタを G-scan に接続し、画面右上の ボタンをタッチすることで現在表示している画面を印刷することができます。印刷したい画面で下記のプリントボタンをタッチしてください。

〈図：プリント画面〉

※注意と補足※

プリント機能を使用できるのは、以下の診断メニューです。

- 自己診断
- フリーズフレームデータ
- アクティブテスト※Basicの方はオプションとなります。
- データ表示（グラフ表示中は不可）※Basicをご購入のお客様はオプションとなります。

また、『OBD-II 診断』では画面の印刷ができません。

保存データ

G-scan の基本操作

1) 『保存データ』では車両の診断で保存したデータを表示することができる機能です。G-scan メイン画面において『保存データ』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：保存データを選択〉

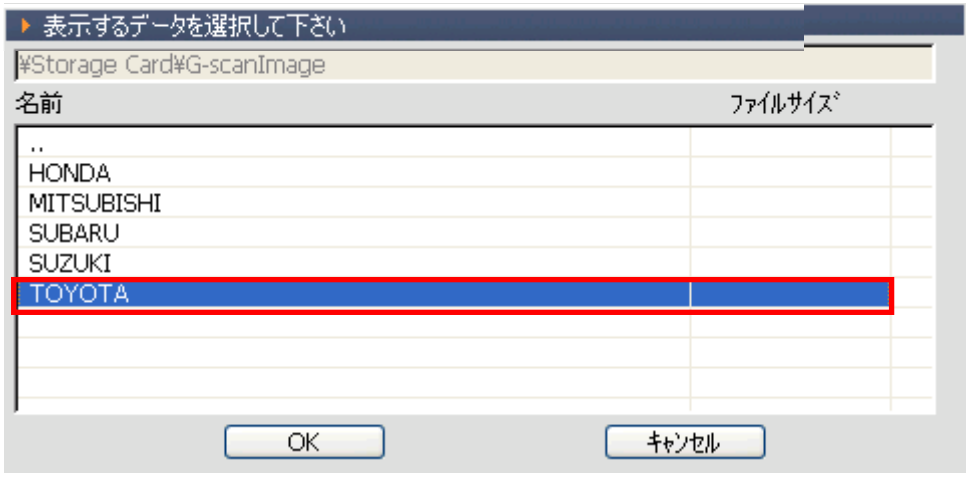
2) 以下の画面が表示されます。表示するデータの種類を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：保存データの選択〉

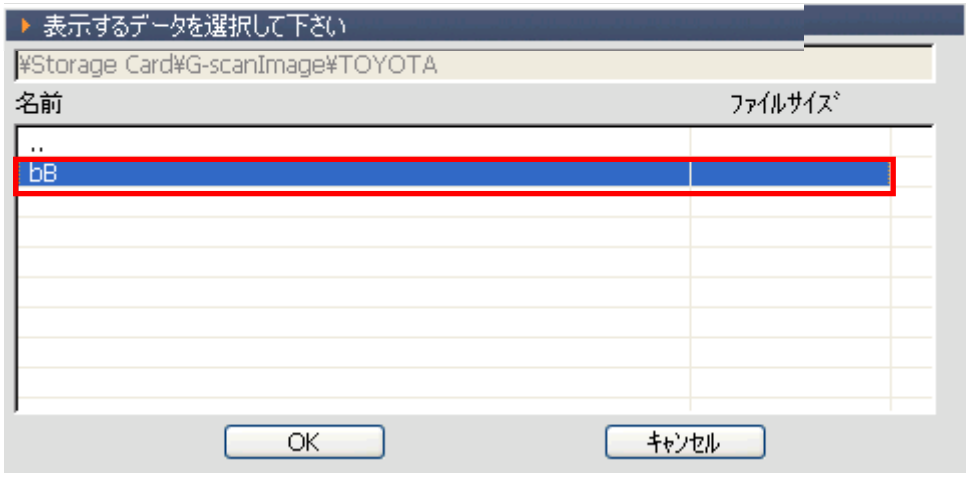
※注意と補足※

- 画面データ とは表示画面を保存した画面データのことです。
  画面データは BMP（ビットマップ）ファイル形式で保存されています。
- 記録データ とはデータ表示機能で記録、保存したデータのことです。
  記録方法の詳細に関しては各メーカー別取扱説明書をご覧ください。

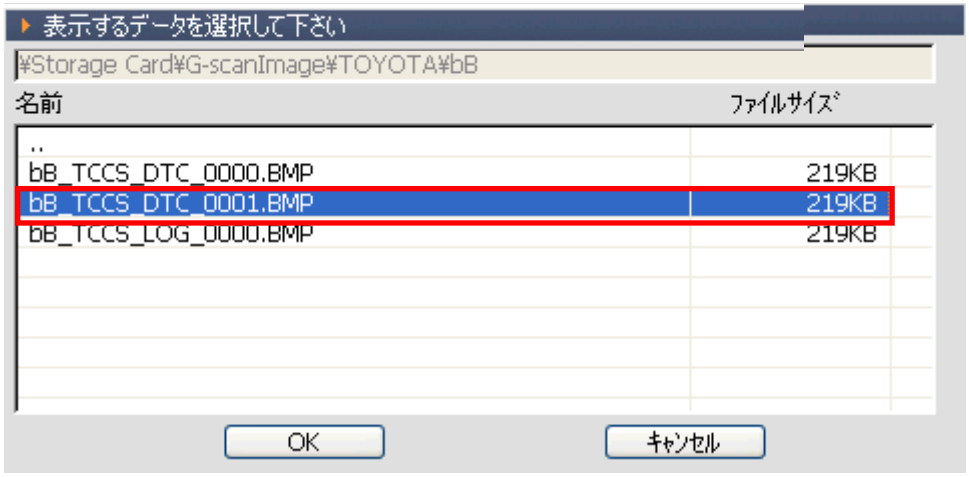
3) データの種類選択後、以下の画面が表示されます。表示するファイルのある
フォルダを選択して OK ボタンをタッチしてください。



〈図：メーカーフォルダの選択〉



〈図：車種名フォルダの選択〉

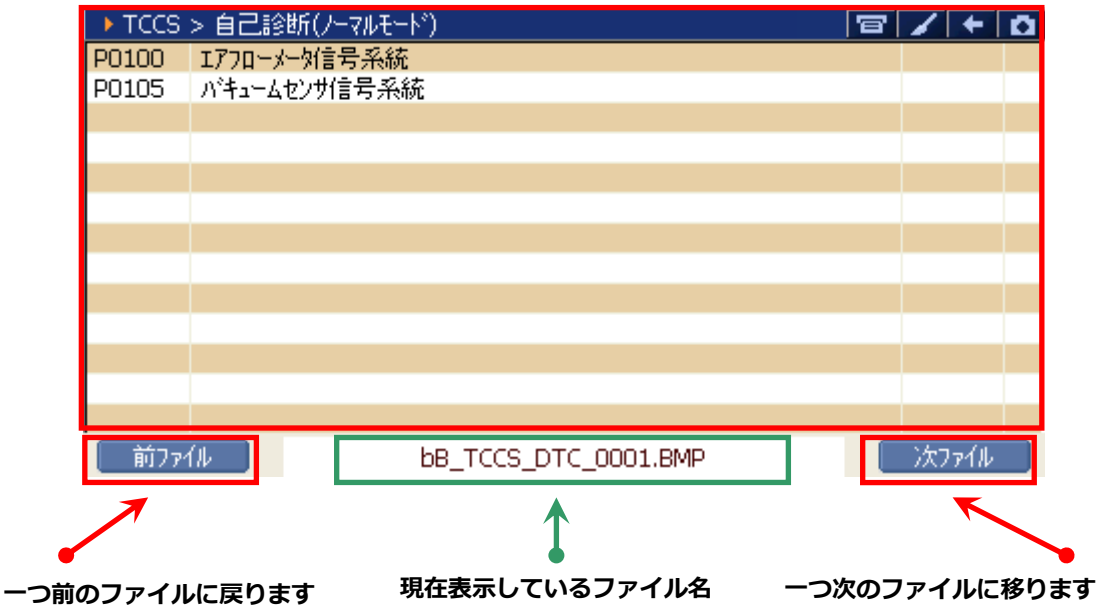


〈図：ファイルの選択〉

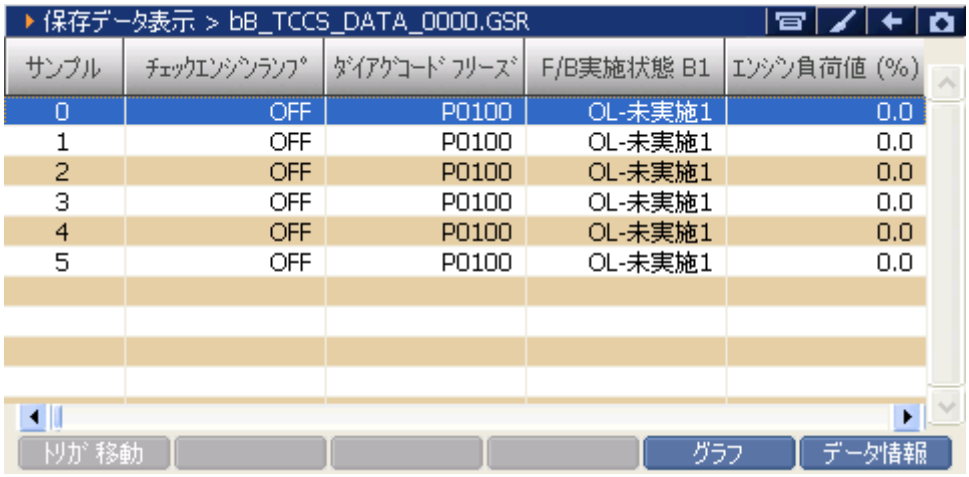
4) フォルダ、ファイルの選択後、選択した保存データが表示されます。

ESC ボタンを押すとファイル一覧に戻ります。

〈画像データを選択した場合〉



〈記録データを選択した場合〉



※注意と補足※

- 記録データの詳細に関しては『保存データ表示機能』ご覧ください。
- この画面では印刷できません。

OBD-II 診断

G-scan の基本操作

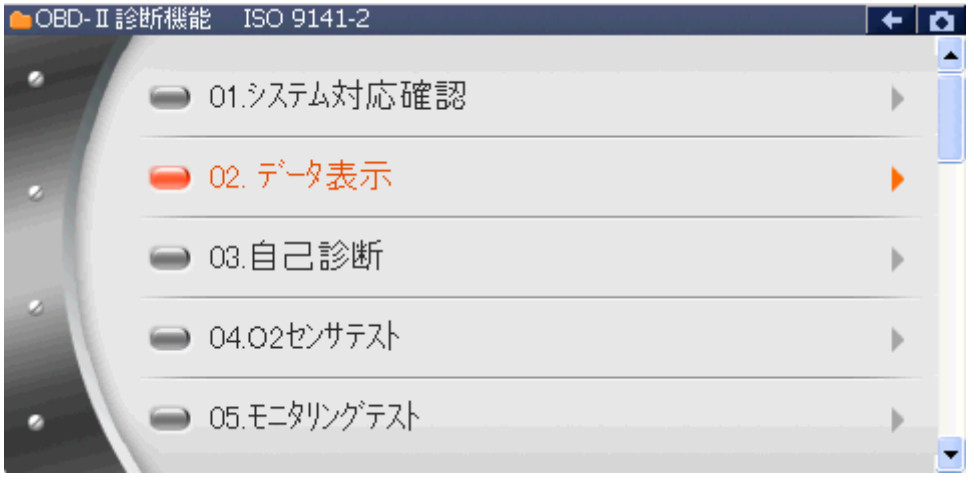
1） 『OBD-Ⅱ診断』では ISO9141、ISO14230（KWP2000）、ISO15765（CAN）規格に準拠した車両のエンジンシステムで診断ができる機能です。

G-scan メイン画面において『OBD-Ⅱ診断』を選択し、ENTER ボタンを押してください。

〈図：OBD-Ⅱ診断を選択〉

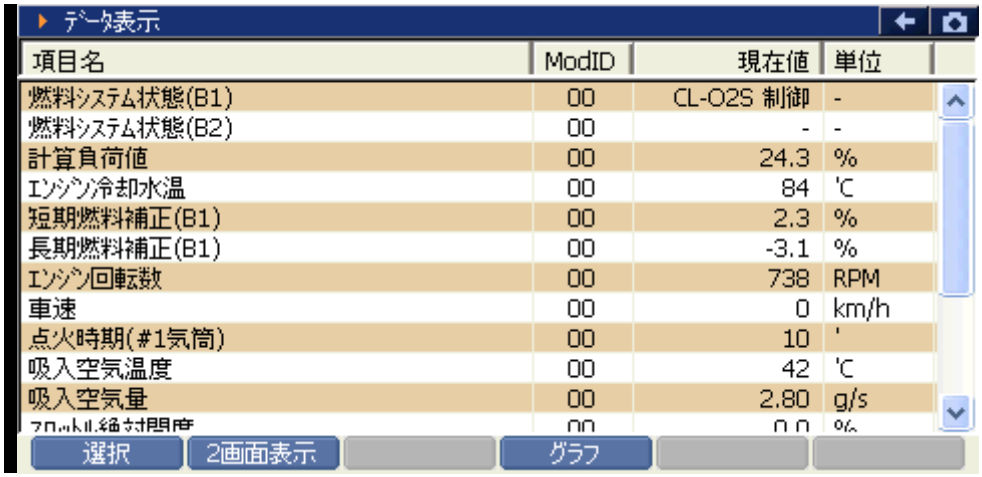
2） OBD-Ⅱ診断で実行できる機能の一覧が表示されます。

機能一覧から実行する機能を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：OBD-Ⅱ診断メニュー〉

3） 選択した機能の項目一覧が表示されます。



〈図：データ表示機能　項目一覧〉

選択　　グラフ表示する項目を選択します。【詳細は P39 を参照】

2画面表示　　項目一覧を 2 画面表示に切替えます。

グラフ　　数値で表示されているデータをグラフで表示します。【詳細は P39 を参照】

※注意と補足※

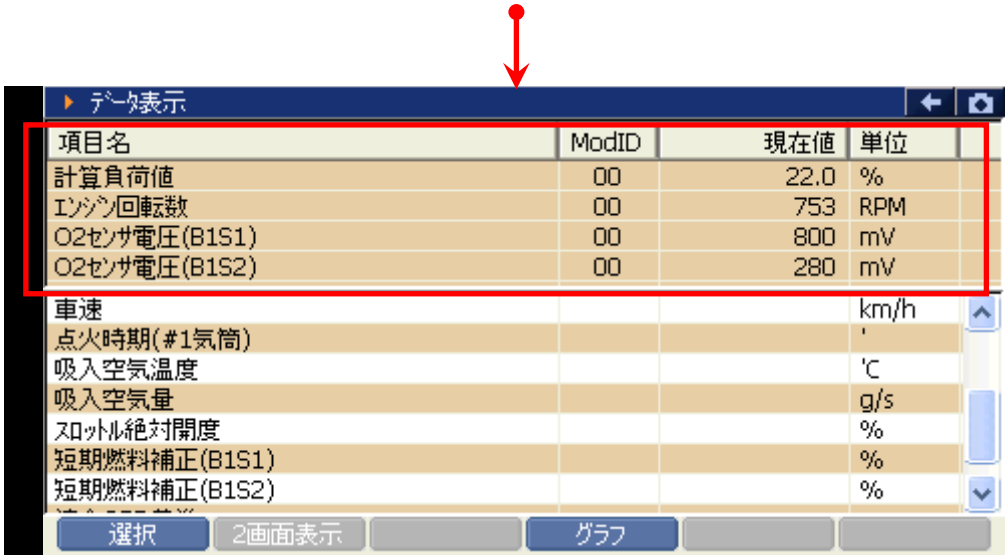
- 以下の画面のように表示された場合、選択した機能は未対応になります。

〈図：未対応機能選択時〉

4）データをグラフ表示する場合はグラフ表示する項目を選択する必要があります。

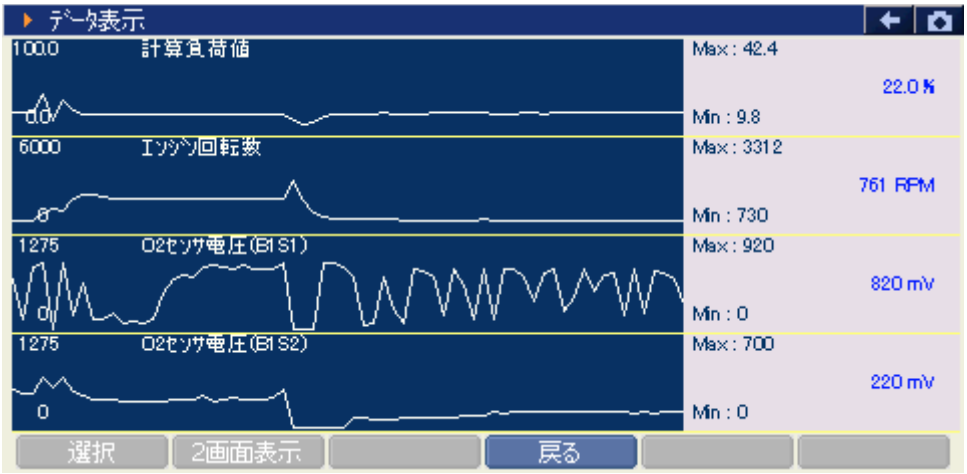
選択したい項目を選んで、選択 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと、画面上部に選択した項目が移動します。

選択した項目



〈図：データ表示機能　項目選択〉

5）グラフ ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと選択した項目のデータがグラフで表示されます。



〈図：データ表示機能　グラフ表示〉

本体設定

G-scan の基本操作

1） 『本体設定』では G-scan 本体機能の設定などを変更することができます。

G-scan メイン画面において『本体設定』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：本体設定を選択〉

2） 本体設定画面が表示されます。

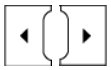
〈図：本体設定画面〉

■セットアップ

〈図：セットアップ画面〉

ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ	バックライトの明るさを調整します。【詳細は P41 を参照】
言語	表示言語を設定します。【詳細は P42 を参照】
ﾎﾞﾀﾝﾃｽﾄ	機能ボタンの動作を確認します。【詳細は P42 を参照】
ﾀｯﾁ調整	タッチパネルの調整を行います。【詳細は P43 を参照】
音/単位設定	表示単位や、ブザーの ON/OFF を設定します。【詳細は P43 を参照】

① タッチ画面上の『バックライト（F1）』、ﾊﾞｯｸﾗｲﾄ ボタンをタッチ、または

ボタンを押してください。コントロールが『バックライト（F1）』に移ります。
タッチペンまたは  ボタンを使用して明るさを調整してください。

〈図：バックライトの調整〉

② タッチ画面上の『言語（F2）』、言語 ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押してください。コントロールが『言語（F2）』に移ります。

タッチペンまたは ▼ 、▶ ボタンを使用して表示言語を設定してください。

〈図：表示言語の設定〉

③ ボタンテストでは、ボタンの動作確認を行うことができます。

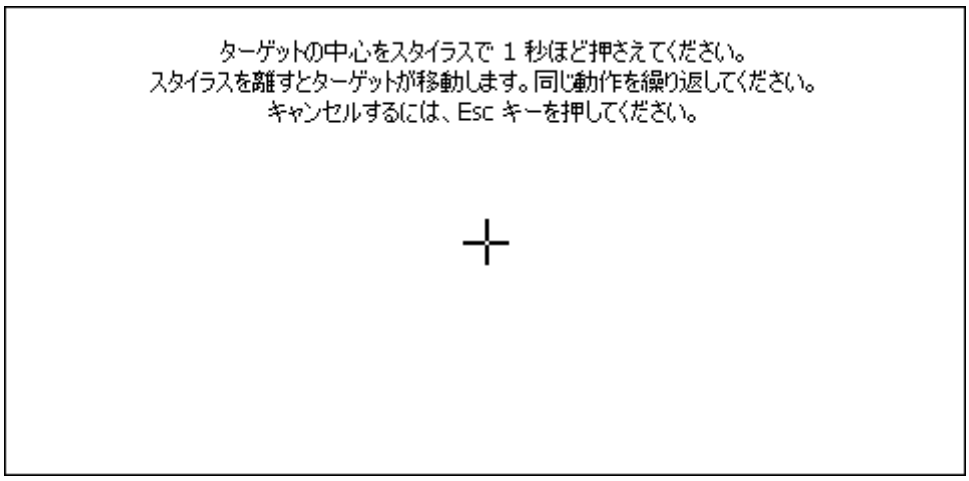
タッチ画面上の『ボタンテスト（F3）』、ﾎﾞﾀﾝﾃｽﾄ ボタンをタッチ、または F3 ボタンを押してください。コントロールが『ボタンテスト（F3）』に移ります。

F1 ～ F6 、▲ 、▼ 、◀ 、▶ を押すと、画面上で押したボタンの色が変わり、正常に動作しているか確認できます。

終了する場合は F1 ＋ ESC を同時に押してください。

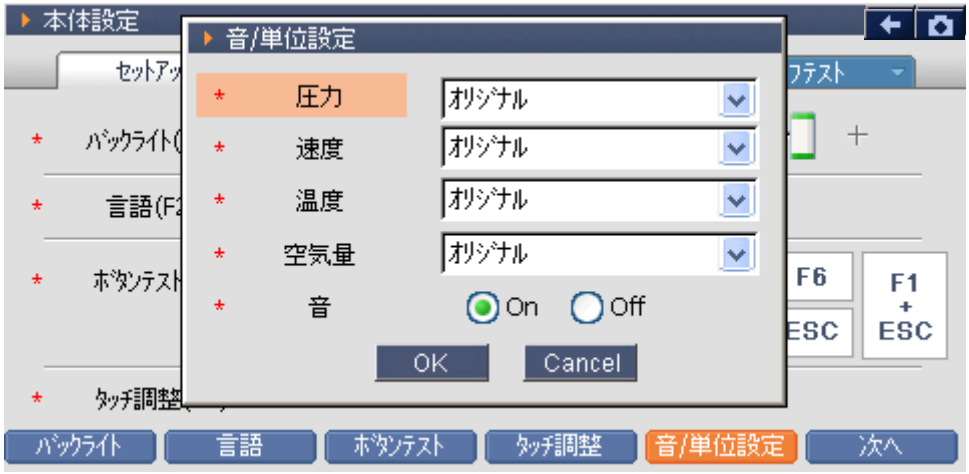
〈図：ボタンの動作テスト〉

④ タッチ画面上の『タッチ調整（F4）』、タッチ調整 ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。画面の指示に従ってタッチパネルの調整を行ってください。



〈図：タッチパネルの調整〉

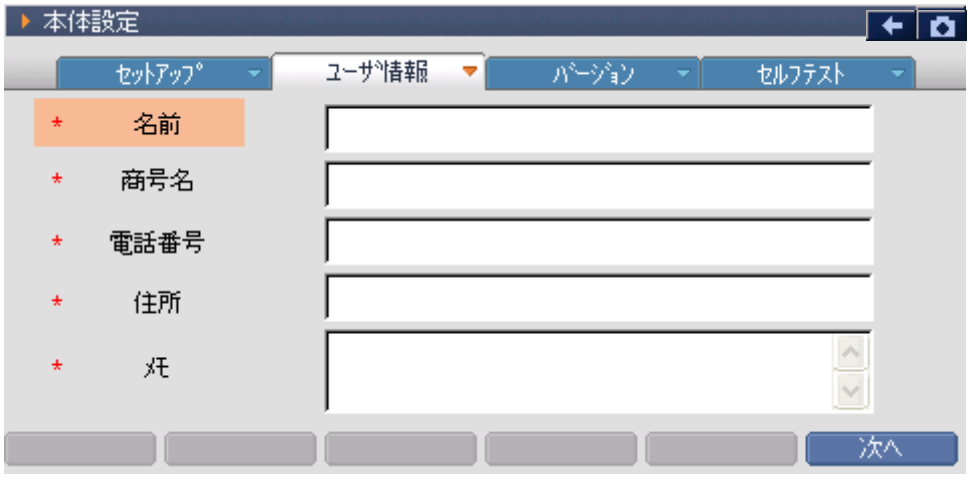
⑤ 音/単位設定 ボタンをタッチ、または F5 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。タッチペン、または ▲、▼、◀、▶ を使用して表示単位とブザーの ON/OFF を設定してください。



〈図：表示単位、ブザーの設定〉

⑥ 次へ ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと『ユーザ情報』タブに移ります。

■ユーザ情報



〈図：ユーザ情報画面〉

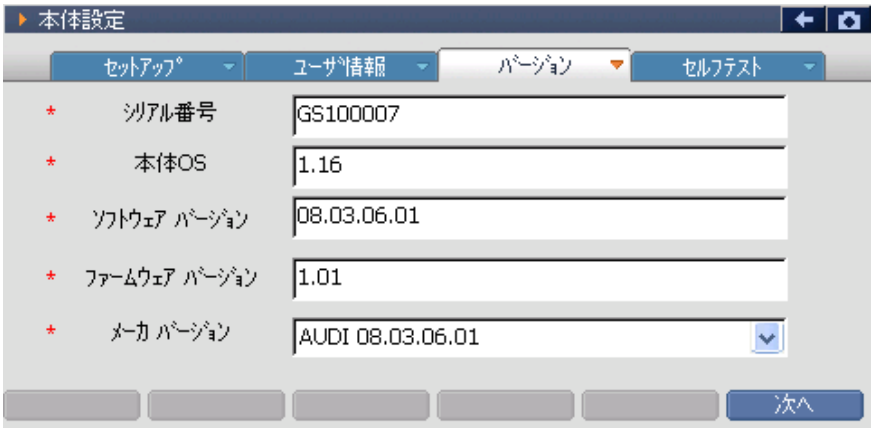
① タッチペン、または ボタンを使用して『名前』を選択してください。『名前』を選択後、タッチペンで入力部分をタッチ、または ボタンを押すと入力パネルが表示されます。入力パネルを使用して名前を入力してください。

〈図：ユーザ情報（名前）の入力〉

② 『名前』入力と同様の方法で『商号名』、『電話番号』、『住所』、『メモ』を入力してください。

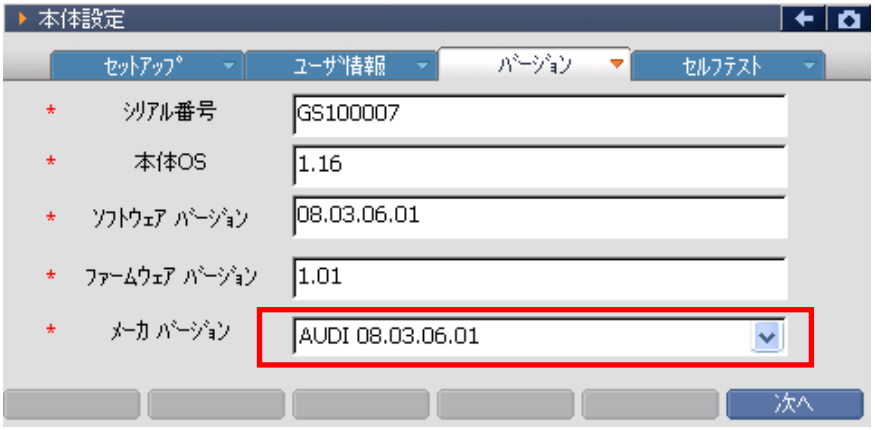
③ 次へ ボタンをタッチ、または ボタンを押すと『バージョン』タブに移ります。

■バージョン



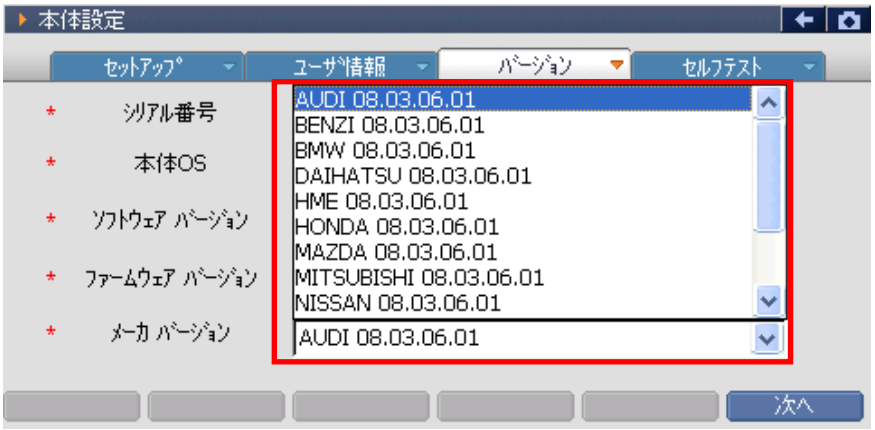
〈図：バージョン画面〉

① 『バージョン』タブでは G-scan のバージョンを確認することができます。『メーカーバージョン』を確認する場合は、以下の部分をタッチペンでタッチしてください。



〈図：メーカーバージョン部分をタッチ〉

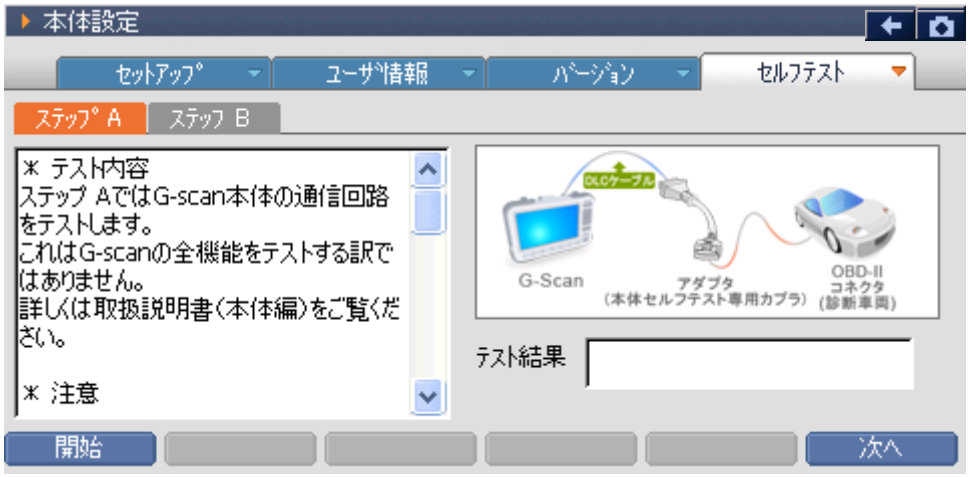
② 各メーカーのバージョンが表示されます。



〈図：各メーカーのバージョンを表示〉

③ 次へ ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと『セルフテスト』タブに移ります。

■セルフテスト　※Basicをご購入のお客様はオプションとなります。



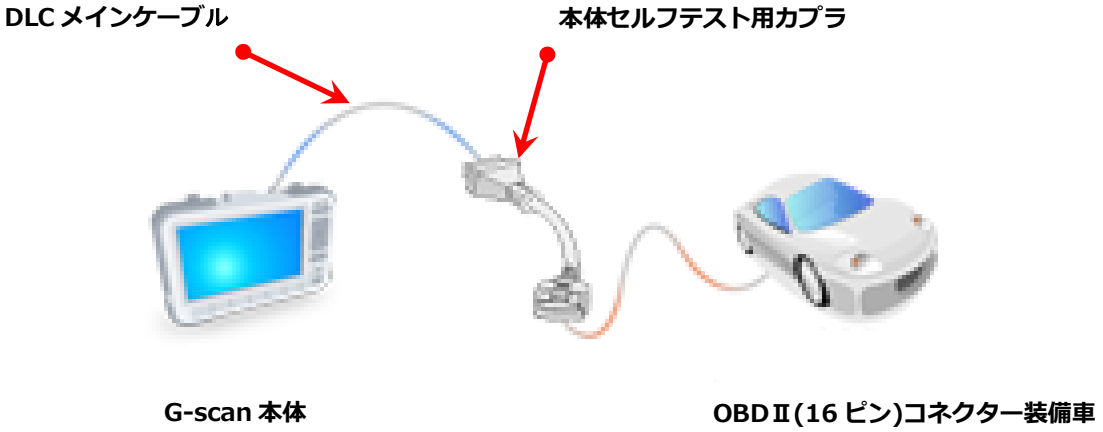
〈図：セルフテスト〉

ステップ A　　G-scan 本体の通信回路をテストします。

ステップ B　　DLC メインケーブルの通信回路をテストします。

開始　　セルフテストを開始します。

①　G-scan に接続した DLC メインケーブルに本体セルフテスト用カプラを接続してください。接続した本体セルフテスト用カプラのもう一端を車両の診断コネクターに接続してください。

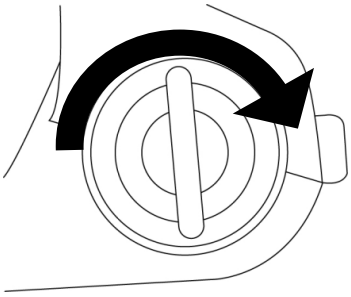


※注意と補足※

- 本体セルフテスト用カプラは必ず OBD-II（16 ピン）コネクターに接続してください。
- 本体セルフテスト用カプラはセルフテスト専用のカプラです。本体セルフテスト用カプラを車両診断に使用しないでください。

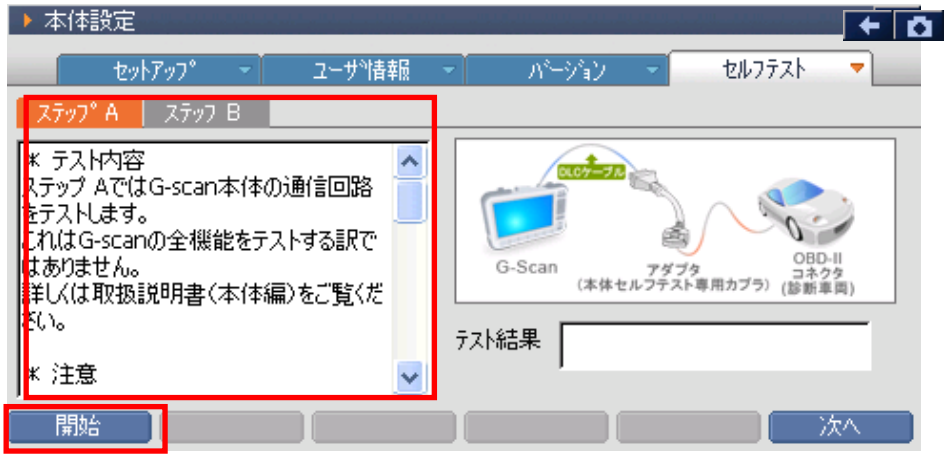
② 車両の IG SW を ON、またはエンジンを始動してください。

この時、本体セルフテスト用カプラの赤いランプが点灯していることを確認してください。



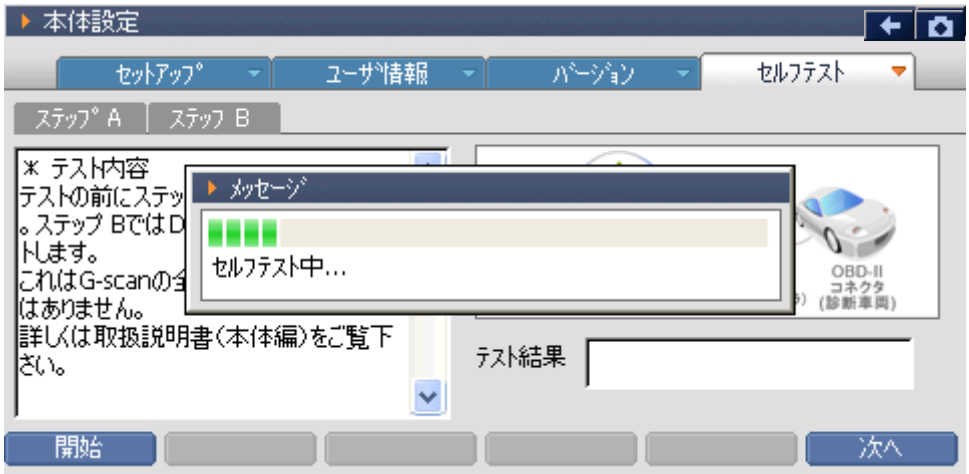
〈図：IG SW ON またはエンジン始動〉

③ 『ステップ A』のセルフテストを開始します。『ステップ A』を選択した状態で、開始 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押してください。『ステップ A』では G-scan 本体の通信回路をテストします。



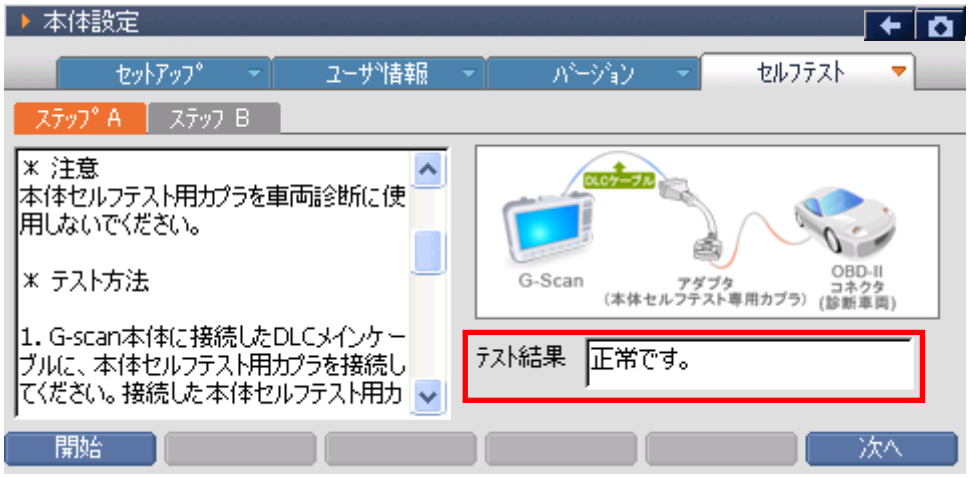
〈図：ステップ A のセルフテストを開始〉

④ 『ステップ A』のテストが開始され、以下の画面が表示されます。



〈図：ステップ A のセルフテスト中〉

⑤　『ステップ A』のセルフテストが終了すると画面右下にテスト結果が表示されます。



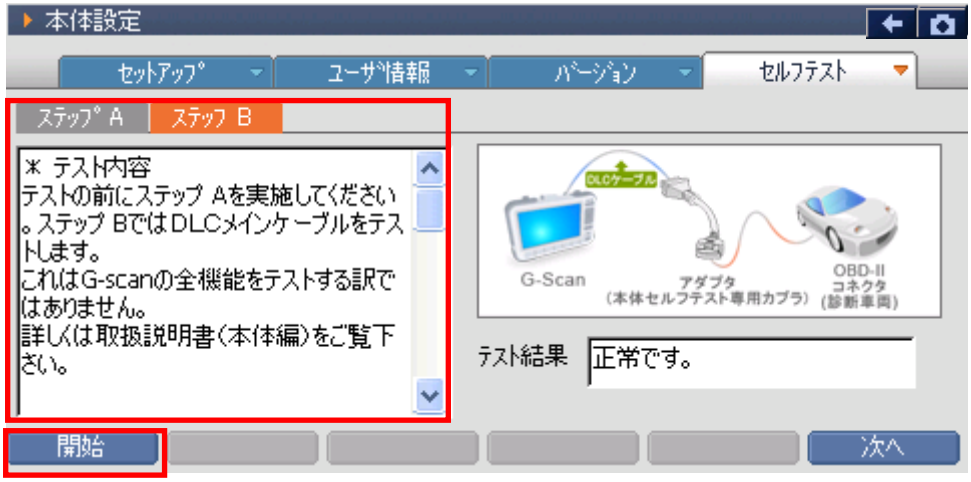
〈図：ステップ A のセルフテスト結果表示〉

<テスト結果>

正常です。　：　G-scan 本体の通信回路は正常に作動しています。
『ステップ B』を実行してください

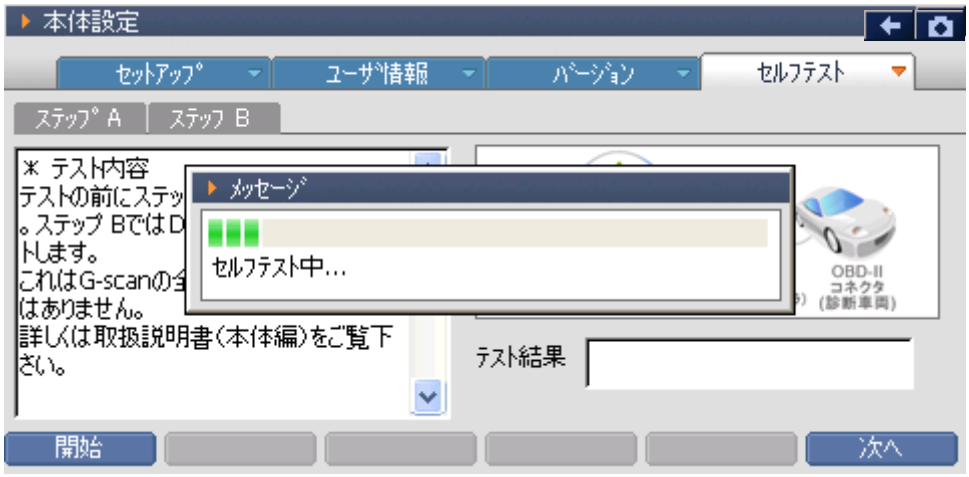
異常です。　：　G-scan 本体の通信回路に異常がある可能性があります。
弊社製品保守センターにご連絡ください。

⑥　『ステップ B』のセルフテストを開始します。テスト前に必ず『ステップ A』を実行してください。
『ステップ B』では DLC メインケーブルをテストします。



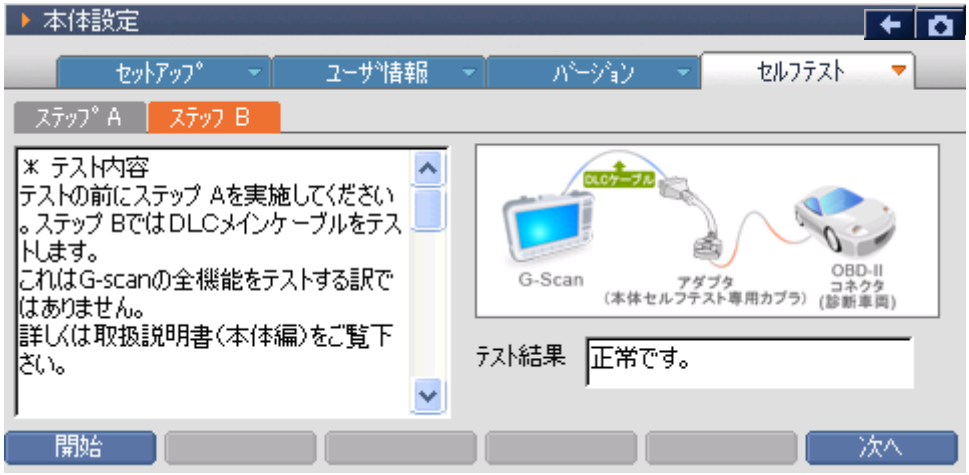
〈図：ステップ B のセルフテストを開始〉

⑦　『ステップ B』のテストが開始され、以下の画面が表示されます。



〈図：ステップ B のセルフテスト中〉

⑧　『ステップ B』のセルフテストが終了すると画面右下にテスト結果が表示されます。



<テスト結果>

正常です。	：	DLC メインケーブルは正常に作動しています。 診断中、車両との通信に問題がある場合は弊社製品保守センターへご連絡くださ
異常です。	：	DLC メインケーブルに異常がある可能性があります。 弊社製品保守センターにご連絡ください。

インターサポート 製品保守センター
TEL：029-304-0185　　受付時間：午前10時～午後5時（土日祝日を除く）
G-scanのシリアル番号をお伝えいただくと、お問い合わせがスムーズです。

ユーザーガイド

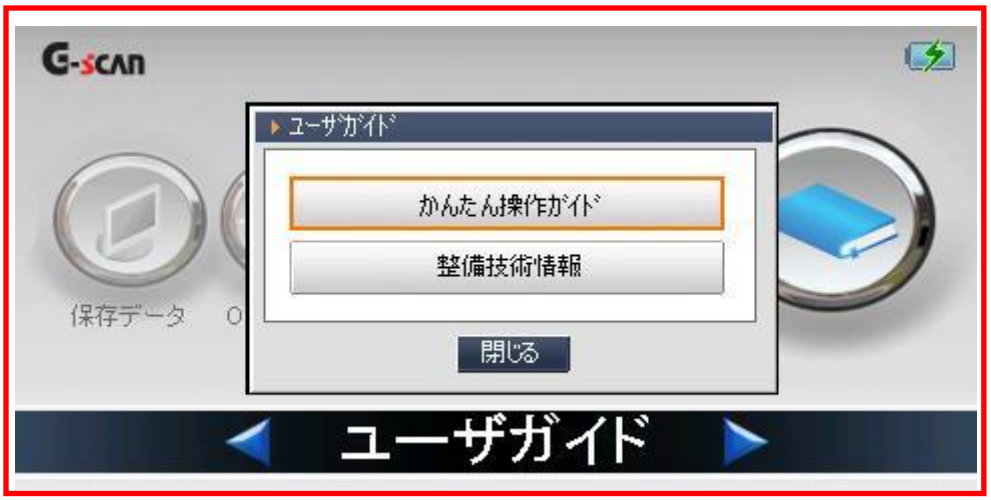
G-scan の基本操作

1） 『ユーザーガイド』では G-scan『かんたん』操作ガイドの内容、各メーカーの整備技術情報を G-scan 上で閲覧することができます。

G-scan メイン画面において『ユーザーガイド』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：ユーザーガイドを選択〉

2） 画面上に選択項目が表示されます。

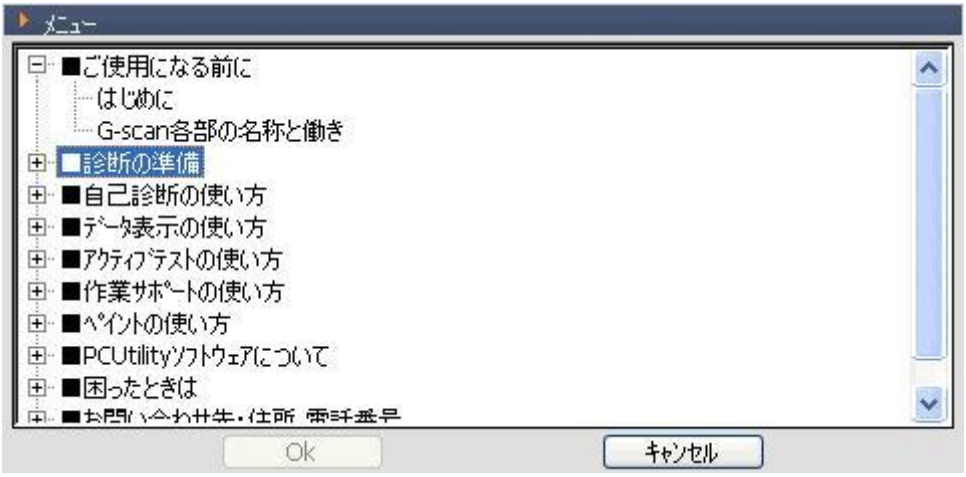


〈図：ユーザーガイド選択画面〉

①『かんたん』操作ガイド

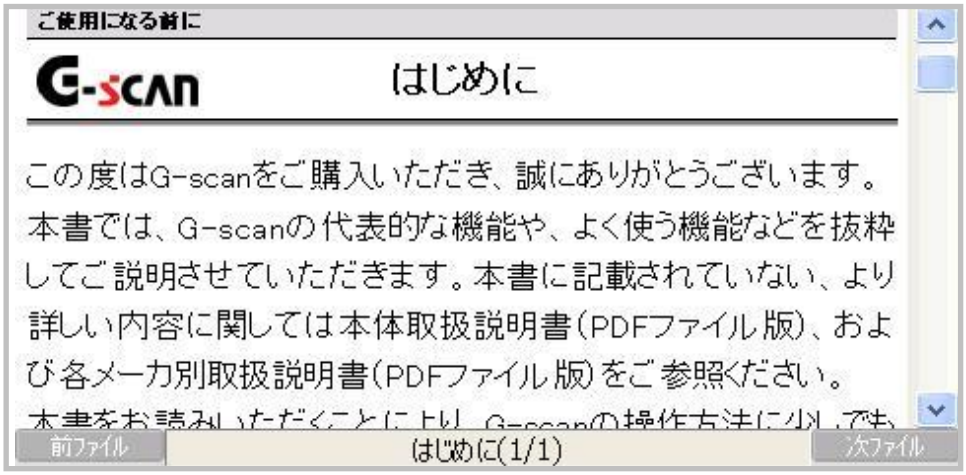
G-scan の代表的な機能や、よく使う機能などを抜粋して説明しています。

1) ユーザーガイド選択画面において『かんたん』操作ガイドを選択して、ENTERボタンを押してください。



〈図：『かんたん』操作ガイド選択画面〉

2) 『かんたん』操作ガイド選択画面において表示したい項目を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：『かんたん』操作ガイド表示画面〉

②整備技術情報

G-scan で作業できる、各メーカーの作業サポート要領(一部抜粋、随時更新予定)を閲覧することができます。※(最新の情報は当社 HP 上からご確認ください)

1) ユーザーガイド選択画面において『整備技術情報』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：整備技術情報選択画面〉

2) 整備技術情報選択画面において表示したい項目を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：整備技術情報表示画面〉

分析モード

G-scan の基本操作

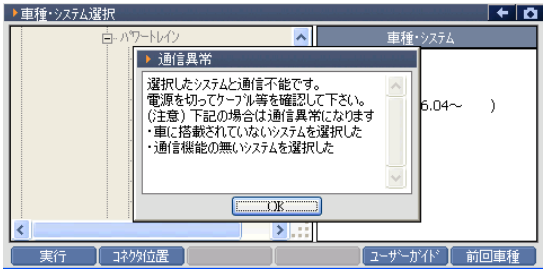
G-scan 本体と車両の通信状態を記録する機能です。

主に、本体と車両の通信ができない・診断内容に不備があるなど、G-scan 側の不具合が疑われる通信情報を記録してご送信ください。その情報をもとに弊社開発部にてデータの分析を行い、お客様にご回答いたします。

ここで記録した通信情報を以後「分析データ」と呼びます。

1) 分析モードの開始

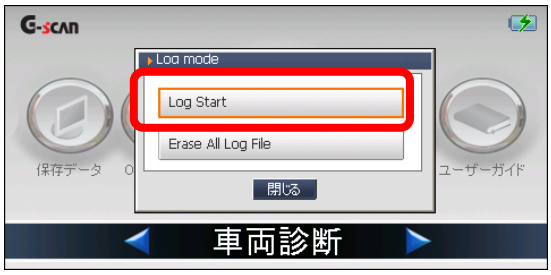
例：TOYOTAアクアのシステムで通信不能



トップ画面まで戻り、[F5]ボタンを押しながら[ESC]ボタンを押すと、右の画面が表示されます。

[Log Start]ボタンを押してください。

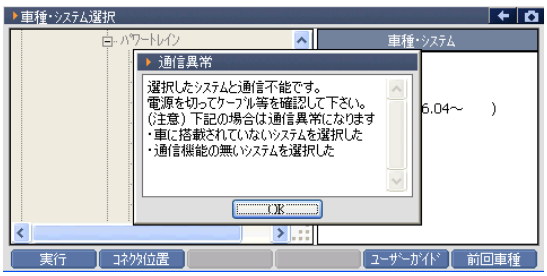
ポップアップ画面が消え、分析モードが開始されます。



2) 車両診断： 分析データの記録

分析を依頼したい通信を再度実行してください。

※必ず下記の手順「分析モードの終了：分析データの記録完了」まで進めてください。



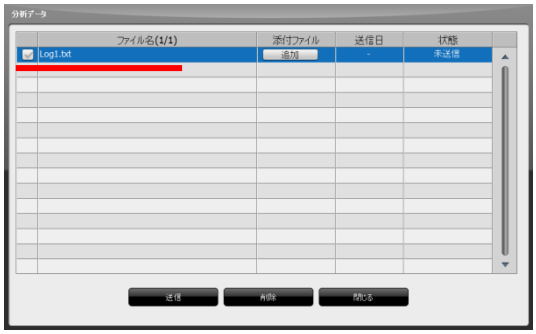
3) 分析モードの終了： 分析データの記録完了

[ESC]ボタンでトップ画面まで戻り、[F5]ボタンを押しながら[ESC]ボタンを押すと、右の画面が表示されます。

[Log Stop]ボタンを押すと、分析モードが終了します。

注：

- 記録した分析データは自動的に「Log1.txt」というファイル名で保存され、PC Utilityから送信できます。詳しくは取扱説明書(PCユーティリティー編)の「分析データ」を参照してください。



- SDカードには1つの分析データしか保存できません。既に記録した分析データが保存されている場合は、上書きされてしまいます。複数の分析データを記録したい場合は、その都度PC Utilityから送信してください。

診断の準備

車両と接続します 57

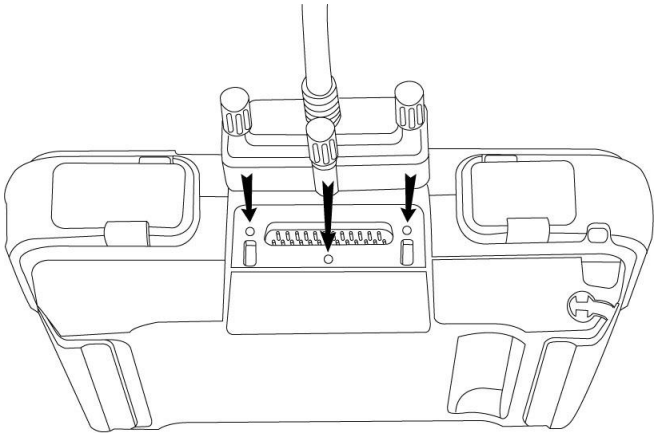
電源のON/OFF 60

車種、システムを選択します 62

車両と接続します

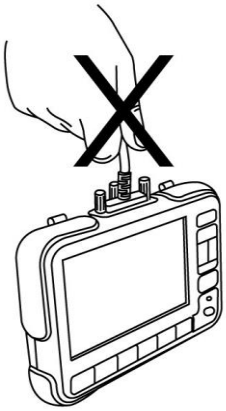
診断の準備

1） G-scan の DLC コネクター部に DLC メインケーブルを接続し、3 箇所のネジをしっかりと締め付けてください。



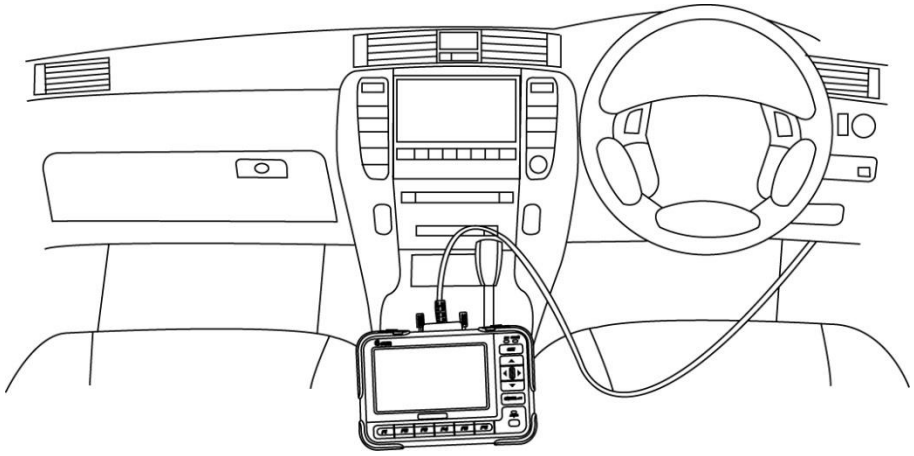
〈図：DLC メインケーブルの接続〉

警告



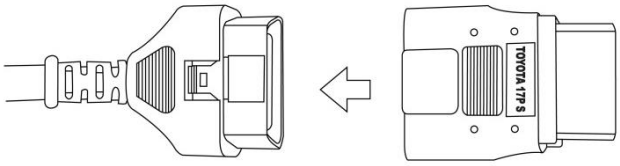
DLC メインケーブルが G-scan に接続された状態で、DLC メインケーブルのみを持たないでください。

2） G-scan 本体に接続した DLC メインケーブルのもう一端を車両の診断コネクターに接続します。

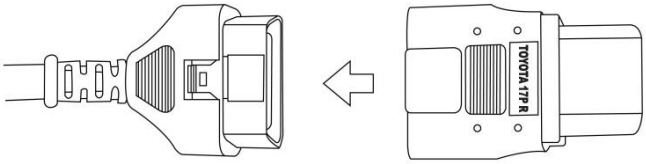


〈図：車両との接続〉

3） 車両の診断コネクターにダイアグコネクター、メーカー独自の診断コネクターが装備されている場合は、メーカー専用のカプラを G-scan のダイアグコネクターのもう一端に接続して、車両の診断コネクターと接続してください。



〈例：トヨタ カプラ(角型)との接続〉

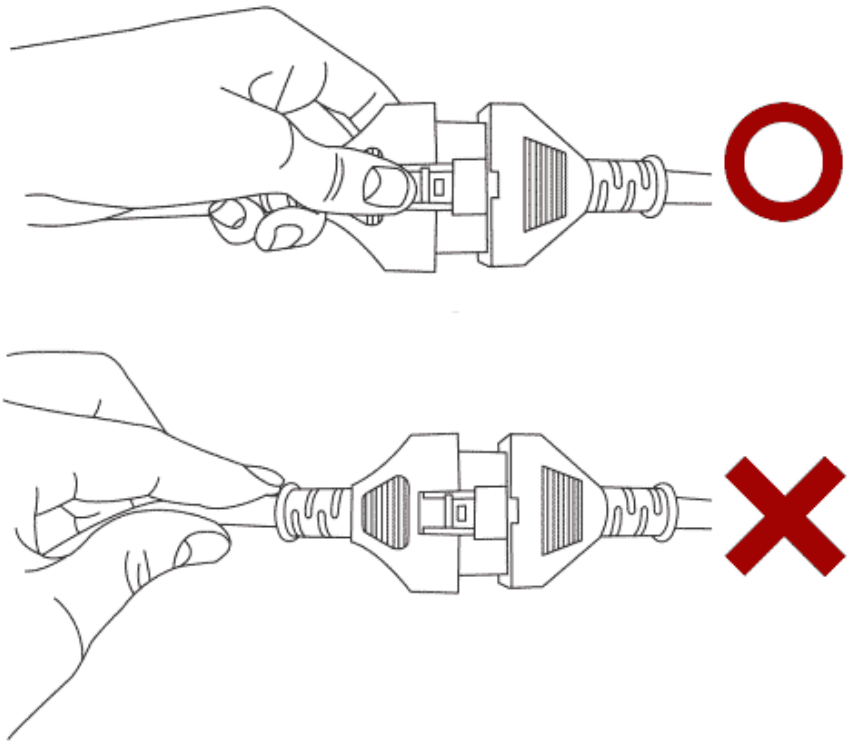


〈例：トヨタ カプラ(丸型)との接続〉

※注意と補足※

- 通信に必要な電源が診断コネクターから G-scan 本体にされない車両があります。この場合は車両診断ができませんので、必ず付属のシガライター電源ケーブル、バッテリー電源ケーブルを使用し、車両から G-scan へ電源を供給してください。電源の供給方法は本取扱説明書の『電源の供給方法について』をご覧ください。

警告

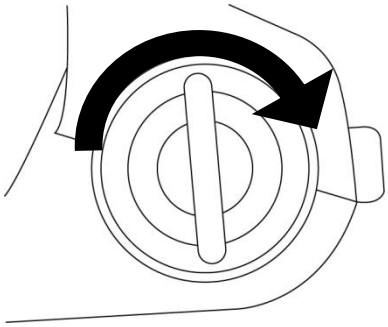


メーカー独自の診断コネクターをＤＬＣメインケーブルから取り外すとき、ハーネスを引っ張ったり、曲げたりしないでください。ケーブルやコネクターに損害を与える場合があります。必ずつまみを押しながら取り外してください。

電源の ON/OFF

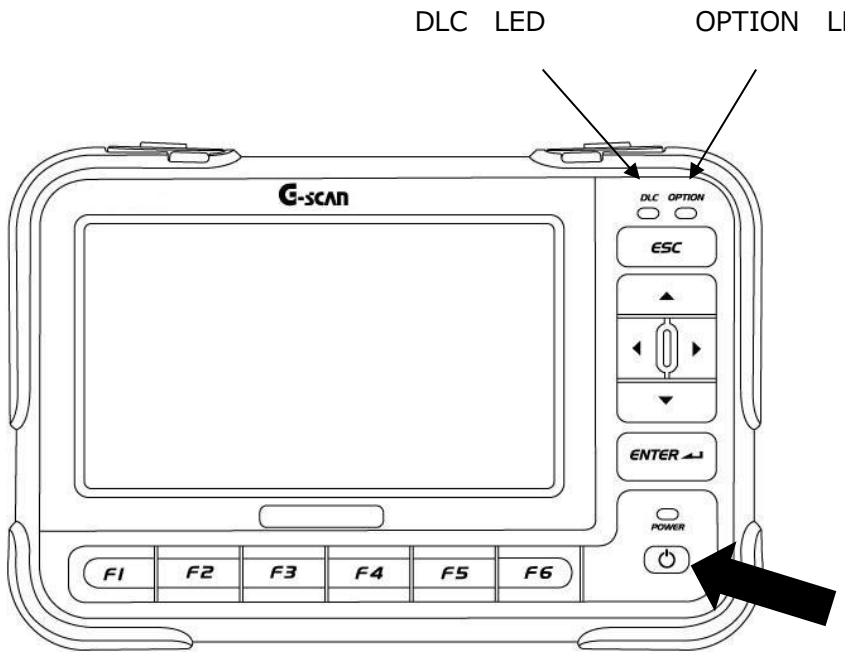
診断の準備

1） 車両の IG SW を ON、またはエンジンを始動します。



〈図：IG SW ON またはエンジン始動〉

2） G-scan 本体の電源 ON/OFF ボタンを約 0.5 秒長押ししてください。DLC LED、OPTION LED がオレンジ色から緑色へと変わり、G-scan の電源が ON します。

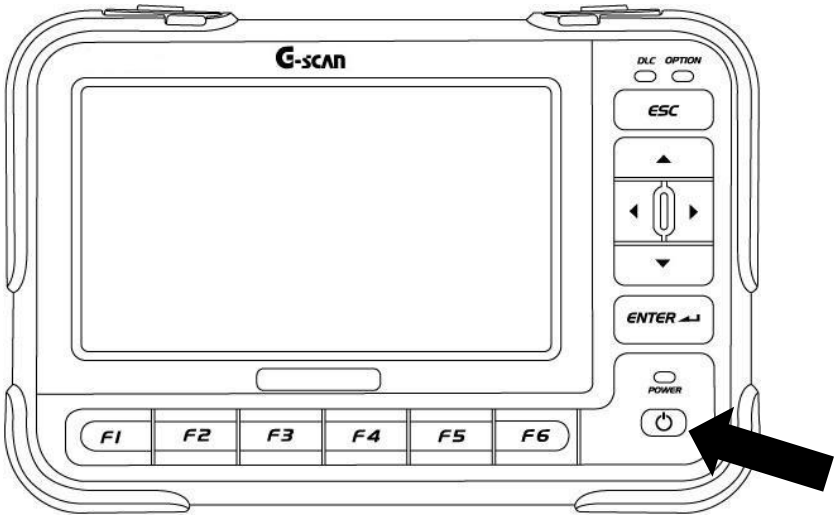


〈図：電源 ON〉

3）G-scan が通常通り起動すると以下の画面が表示されます。

〈図：G-scan メイン画面〉

4）電源を OFF する場合は、上記の G-scan メイン画面を表示した状態で、電源 ON/OFF ボタンを約 2.5 秒長押ししてください。G-scan の電源が OFF します。



〈図：電源 OFF〉

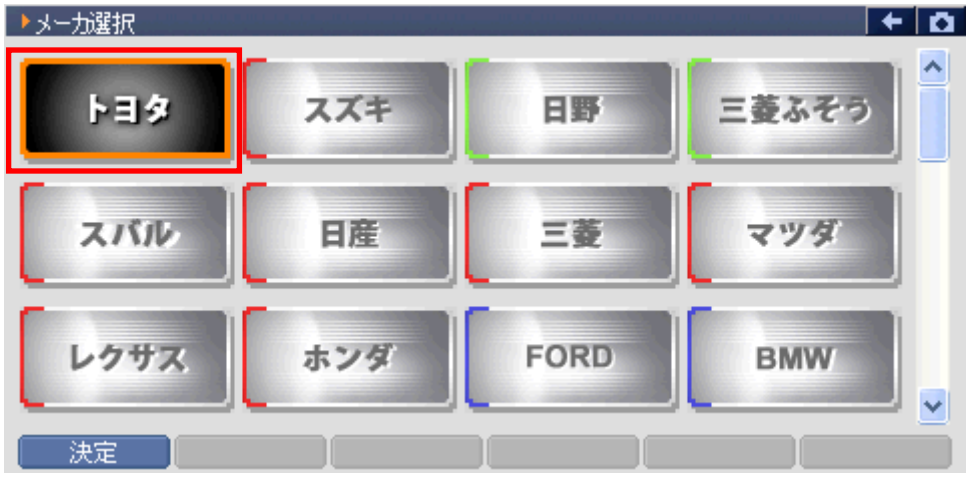
G-SCAN 車種、システムを選択します

診断の準備

1）G-scan メイン画面において『車両診断』を選択して、ENTER ボタンを押してください。

〈図：車両診断を選択〉

2）メーカー選択画面が表示されます。診断死体メーカーをタッチするか、選択して 決定 ボタンまたは F1 ボタンを押してください。



〈図：メーカー選択画面〉

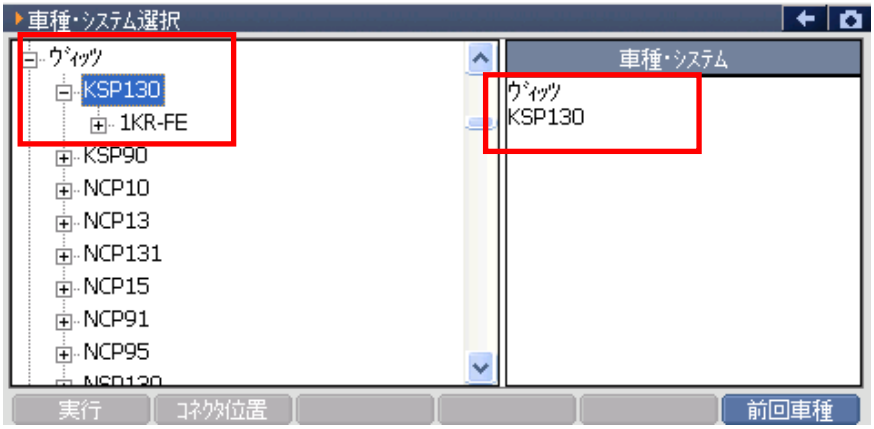
3）車種・システム選択画面が表示されます。

〈図：車種・システム選択画面〉

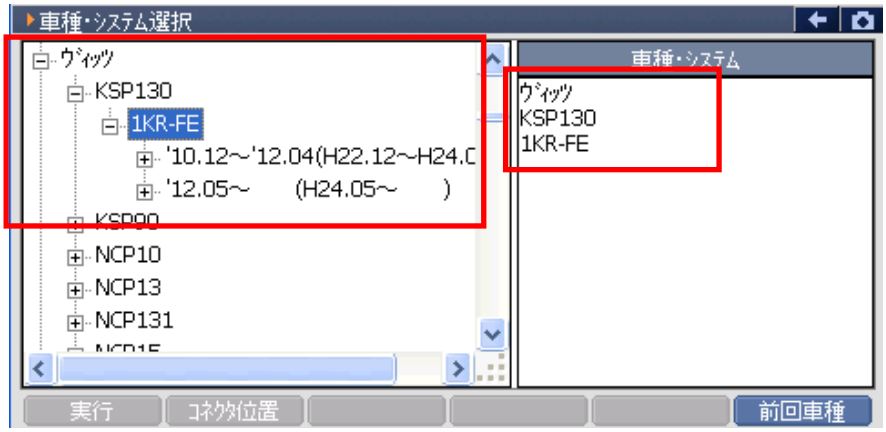
4）診断する車種名を選択して ENTER ボタンを押してください。車種名の下に型式が表示されます。

〈図：車種名の選択〉

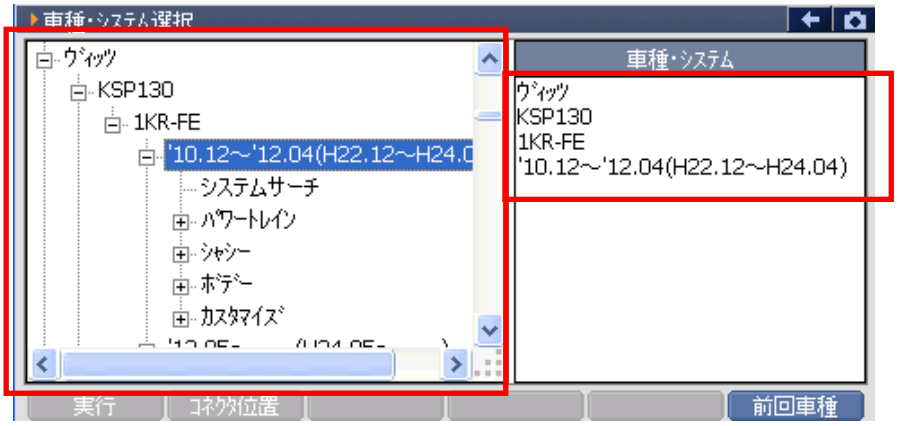
5）同様に、診断する車両の型式、エンジン型式、年式を選択してください。



〈図：型式の選択〉

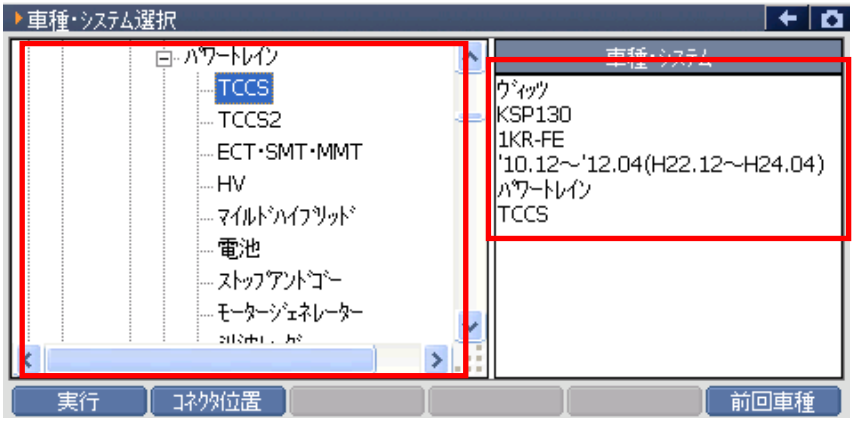


〈図：エンジン型式の選択〉



〈図：年式の選択〉

6）最後にシステムを選択します。診断するシステムを選択して 実行 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押してください。



〈図：システムの選択〉

※注意と補足※

- 車種、システムの選択は正確に行ってください。正確に車種・システム選択が行われないと故障コード違いや、データ違い、通信異常の原因になります。

- 車種・システム選択画面で 前回車種 ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと、前回選択した車種、システムが自動で選択されます。
- システムサーチとは車両に搭載されたシステムのうち、G-scan で診断できるシステムを検索する機能です。システムサーチを実行すると、画面に通信可能なシステム一覧と各システムで検出された故障コードの数を表示します。

  システム一覧から、システムを選択後 実行 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと選択したシステムと通信が開始され、7）の診断メニューが表示されます。

  再サーチ ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと再度システムサーチを行います。

〈図：システムサーチ画面〉

- 自己診断機能がないシステムはコード数に”－“と表示されます。システムサーチで故障コードの数を表示できないシステムは、コード数に”->”と表示されます。

7）車種・システムの選択が正しく行われると診断メニューが表示されます。

〈図：診断メニュー画面〉

※注意と補足※

- 上記の診断メニューは TCCS（トヨタ・コンピューター・コントロール・システム）を選択した例です。診断メニューに表示される診断機能は車種、システムによって異なります。

診断機能

自己診断機能..... 67

データ表示機能..... 76

保存データ表示機能..... 91

アクティブテスト機能..... 101

作業サポート機能..... 104

識別情報表示機能..... 105

自己診断機能

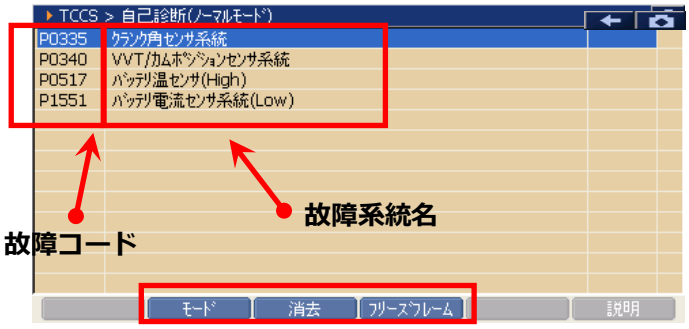
診断機能

DLC3 コネクター(OBD16 ピン)装備車

1)　診断メニューから『自己診断』を選択して ENTER ボタンを押してください。

〈図：診断メニューにて自己診断を選択〉

2)　自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。



〈図：自己診断画面〉

故障コード　：　SAE コード（例：P0135）が表示されます。

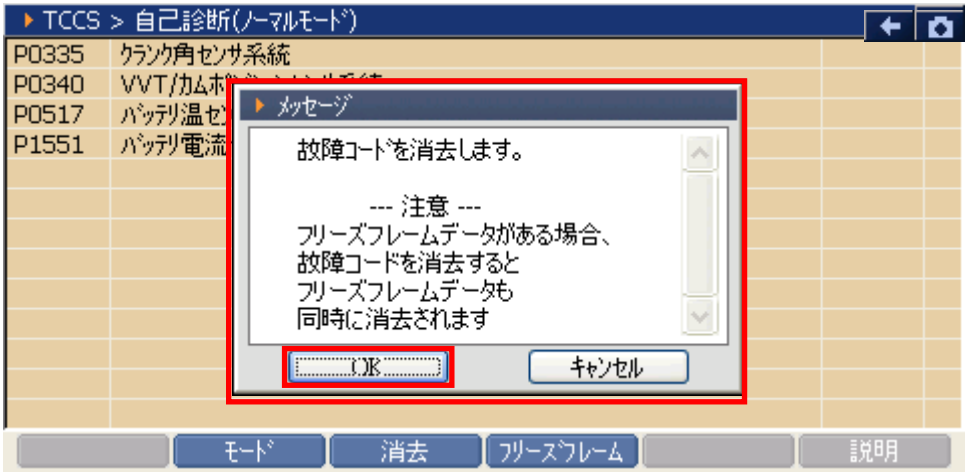
故障系統名　：　故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、各メーカーのサービスマニュアルをご覧ください。

モード　：　ノーマルモードとチェックモード（テストモード）の切替をします。
【詳細は P69 を参照】

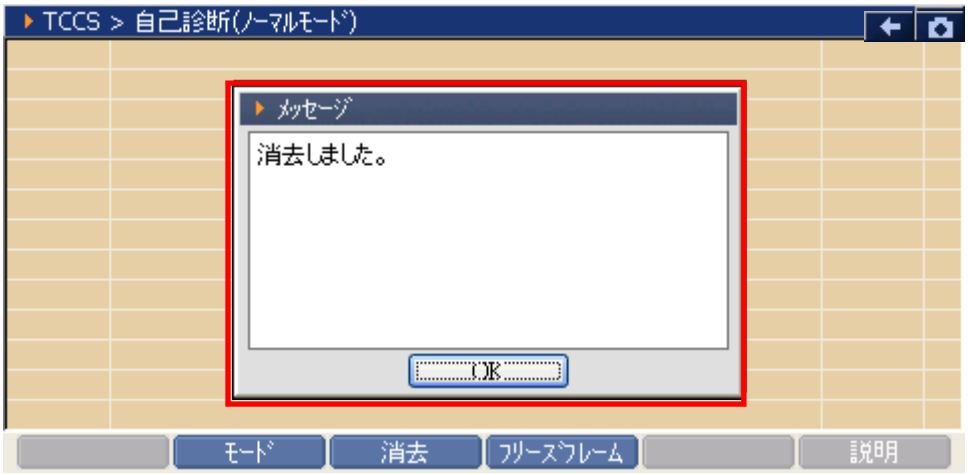
消去　：　自己診断記憶を消去します。【詳細は 3)を参照】

フリーズフレーム　：　フリーズフレームデータを表示します。【詳細は P70 を参照】

3) 消去 ボタンをタッチ、または F3 ボタンを押すと故障コードを消去します。以下の画面が表示されますので、 OK ボタンをタッチして故障コードを消去してください。



〈図：故障コードの消去〉

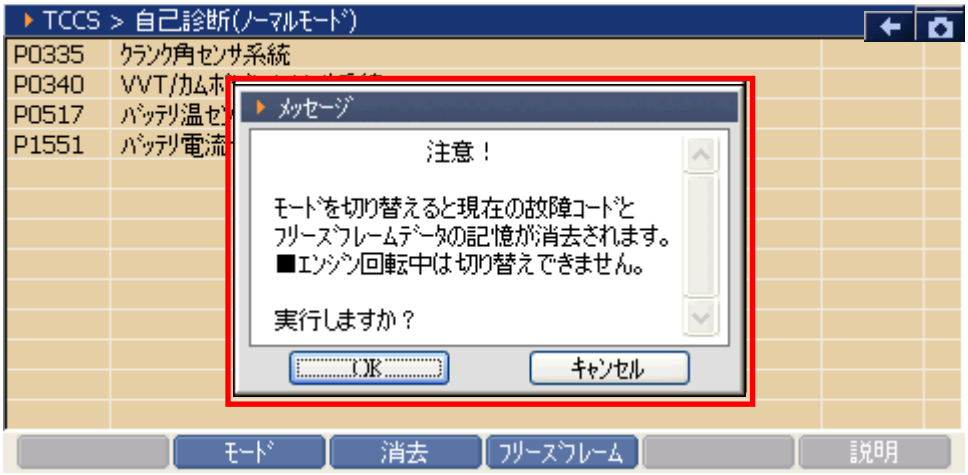


〈図：故障コードの消去完了〉

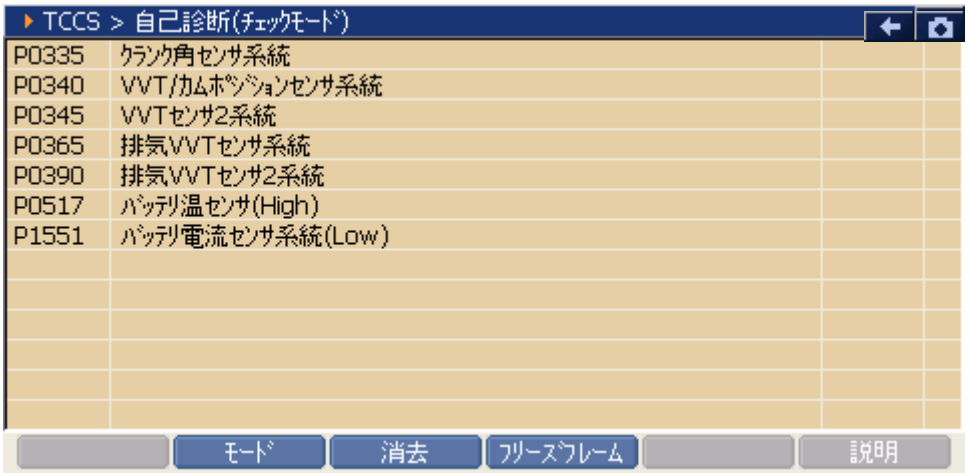
■ モード ボタンの詳細

① モード ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押すとノーマルモードとチェックモード（テストモード）の切替えが行えます。

以下の画面が表示されますので、よろしければ OK ボタンをタッチしてください。モードが切替わります。



〈図：モード切替〉



〈図：チェックモード（テストモード）での表示〉

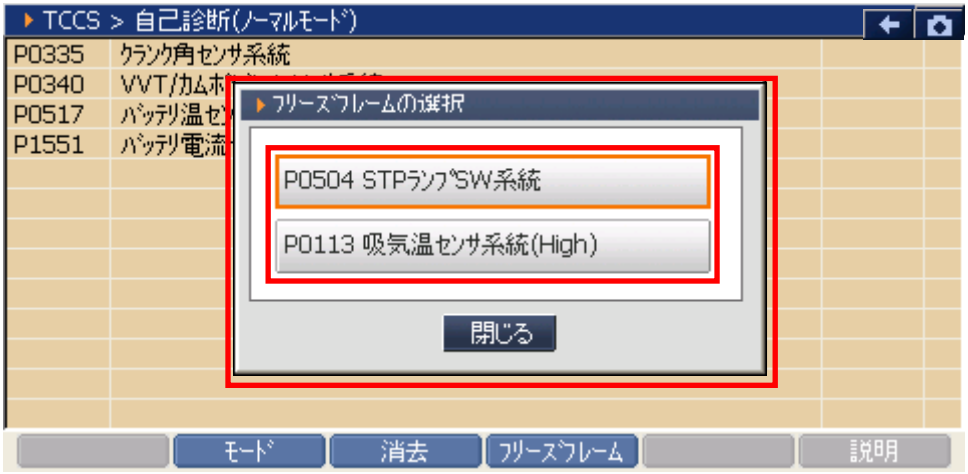
※注意と補足※

- チェックモードとは、通常のノーマルモードに比べて異常検出感度を向上させた機能です。各センサの異常が考えられるにも関わらず、ノーマルモードで検出できない場合に使用します。
- テストモードとは定められた手順に従って車両を操作し、各センサのチェックを行う機能です。テストモードを実行すると、異常ではなくてもテストモードコードを出力することがあります。詳細に関してはトヨタのサービスマニュアルをご参照ください。
- メーカーやシステムにより、モードの変更に対応していない場合があります。

■ フリーズフレーム ボタンの詳細

1）ＨＶ(ハイブリッド)システム以外の場合

① フリーズフレーム ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。フリーズフレームデータを表示する故障コードを選択してください。



〈図：表示するフリーズフレームデータの選択〉

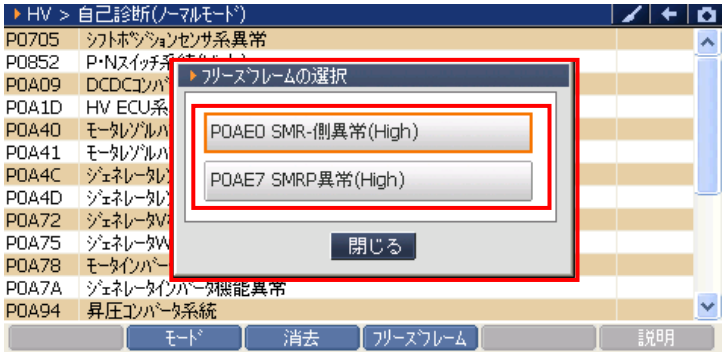
② 故障コードを選択すると、フリーズフレームデータが表示されます。

戻る ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと自己診断画面に戻ります。

〈図：フリーズフレームデータの表示〉

2）ＨＶ(ハイブリッド)システムの場合

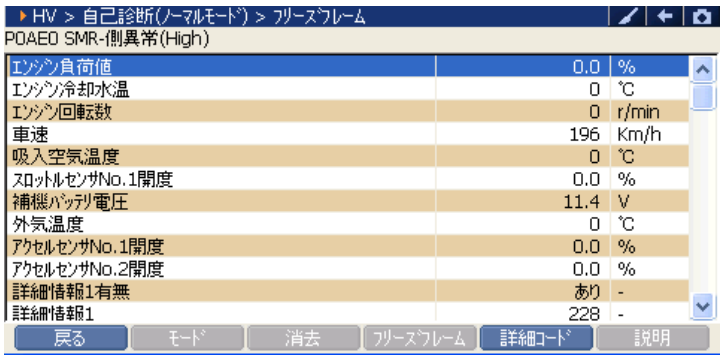
① フリーズフレーム ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。フリーズフレームデータを表示する故障コードを選択してください。



〈図：表示するフリーズフレームデータの選択〉

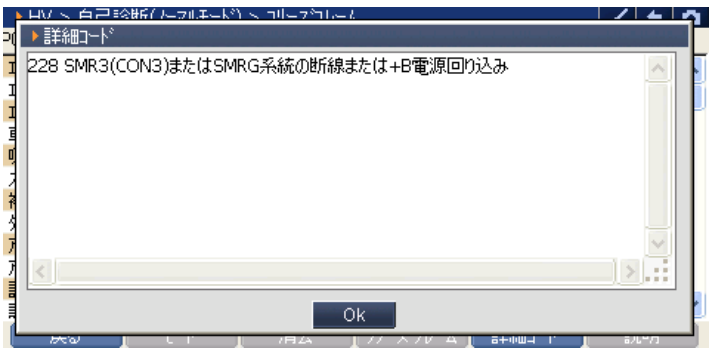
② 故障コードを選択すると、フリーズフレームデータが表示されます。

戻る ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと自己診断画面に戻ります。



〈図：フリーズフレームデータの表示〉

③ 詳細コード ボタンをタッチ、または F5 ボタンを押すと詳細コードが表示されます。



〈図：詳細コードの表示〉

※注意と補足※

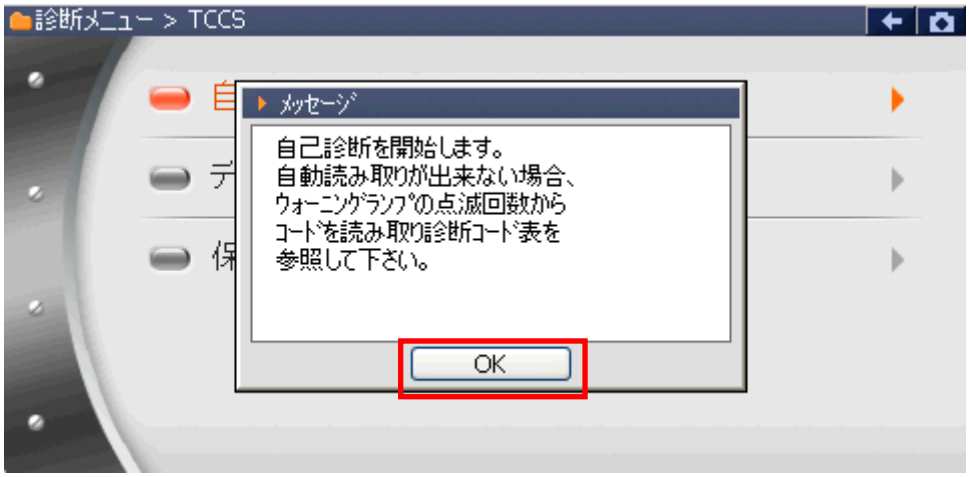
- フリーズフレームデータとは故障コード発生・検出時のデータが ECU（コンピューター）によって記録されたものです。記憶されるデータの種類は車載 ECU によって決められていて、故障コードに関連したデータ（エンジン回転数、車速、燃料補正値、冷却水温等）が記憶されます。
- フリーズフレームデータは故障コード消去後、最初の故障コード発生と同時に 1 回だけ記憶されます。
- 詳細コードとは故障コードを細分化したコードを示します。
- 詳細コードはフリーズフレームデータがなければ詳細コードは確認できません。
- フリーズフレームデータ、詳細コードは故障コードを消去する時に同時に消去されます。
- メーカーやシステムによって、フリーズフレームに対応していない場合もあります。

メーカー独自のコネクター装備車など

1） 診断メニューにおいて『自己診断』選択して、 ENTER ボタンを押してください。

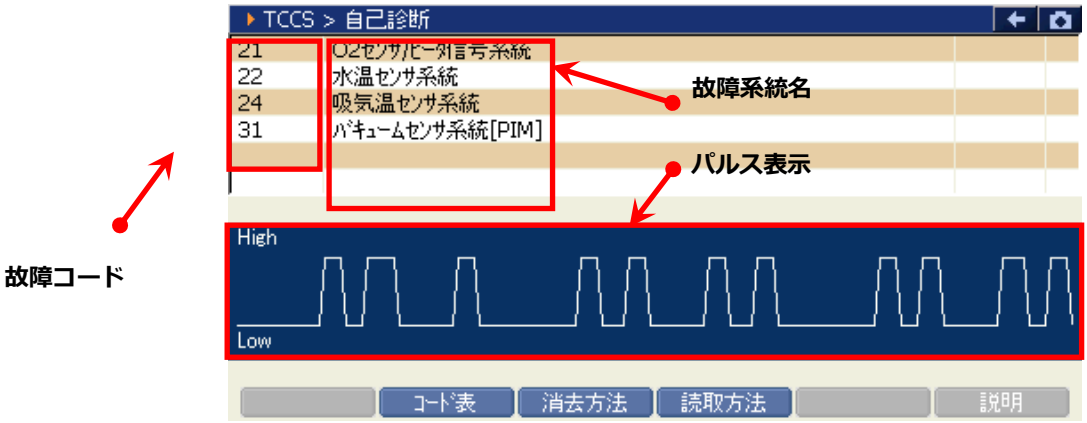
〈図：診断メニューにて自己診断を選択〉

2） 確認メッセージが表示されますので OK を押して進んでください。



〈図：自己診断確認メッセージ〉

3）自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。



〈図：自己診断画面〉

故障コード ： 故障コードが表示されます。故障コードの自動読み取りに対応していないシステムは故障コードと故障系統名が表示されません。

故障系統名 ： 故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、各メーカーのサービスマニュアルをご参照ください。

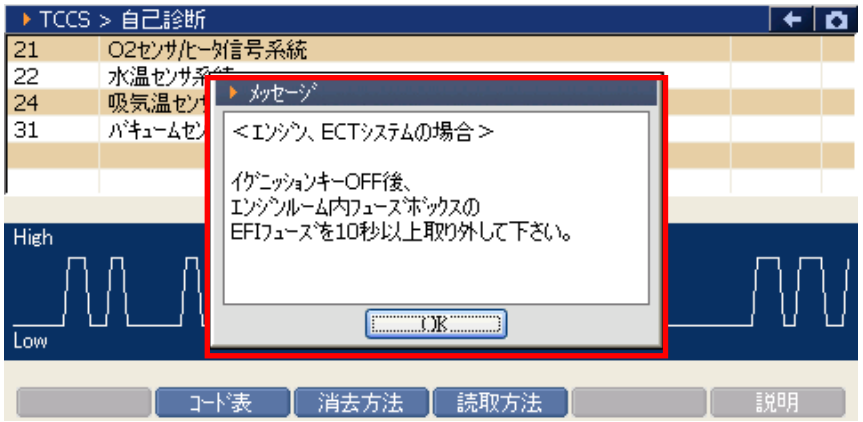
パルス表示部 ： ウォーニングランプの点滅状態がパルスで表示されます。メーカやシステムによっては、パルスが表示されず、車両側のウォーニングランプを読み取る場合があります。

ｺｰﾄﾞ表 ： コード表を表示します。【詳細は P2 を参照】

消去方法 ： 自己診断記憶を消去します。【詳細は 4）を参照】

読取方法 ： 故障コードの読取方法を表示します。【詳細は P75 を参照】

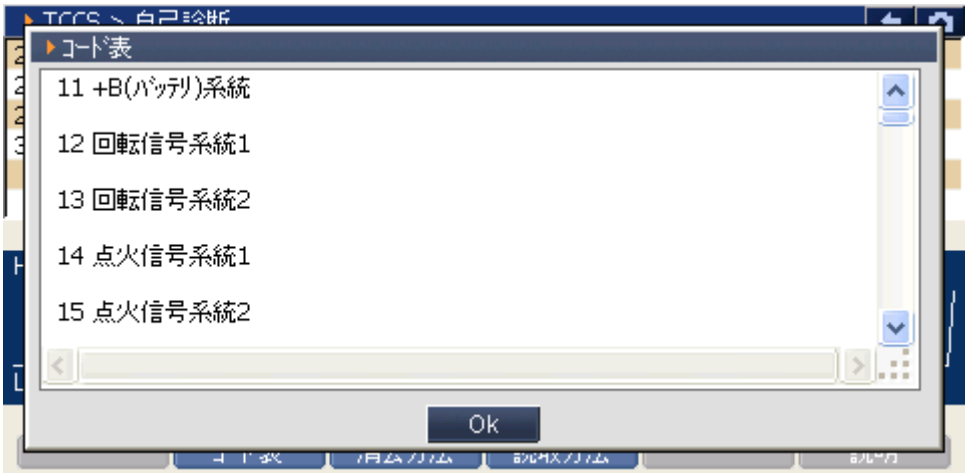
4） 消去方法 ボタンをタッチ、または F3 ボタンを押すと故障コードの消去方法が表示されます。
表示された消去方法に従って、故障コードを消去してください。



〈図：消去方法の表示〉

■ コード表 ボタンの詳細

① コード表 ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押すと、現在選択しているシステムの故障コード表が表示されます。



〈図：コード表の表示〉

■ 読取方法 ボタンの詳細

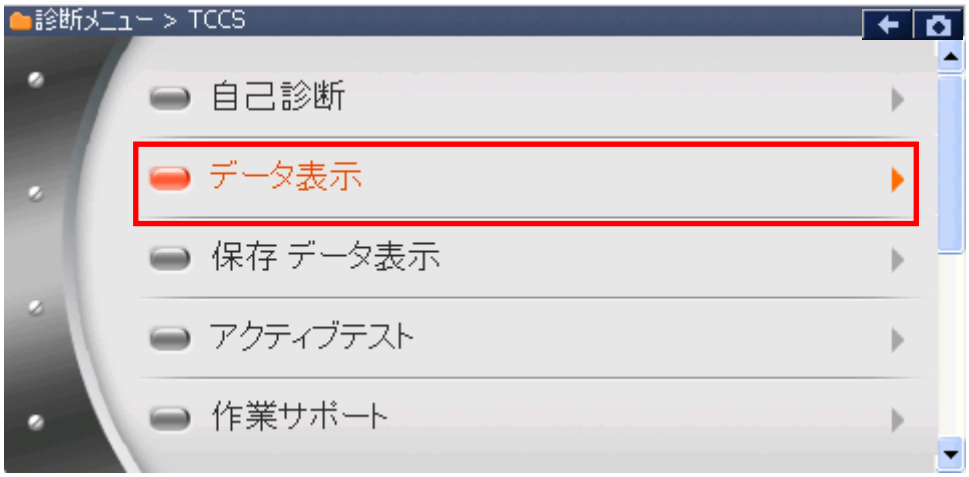
① 読取方法 ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと、ウォーニングランプによる故障コードの読み取り方法が表示されます。

〈図：読取方法の説明〉

データ表示機能

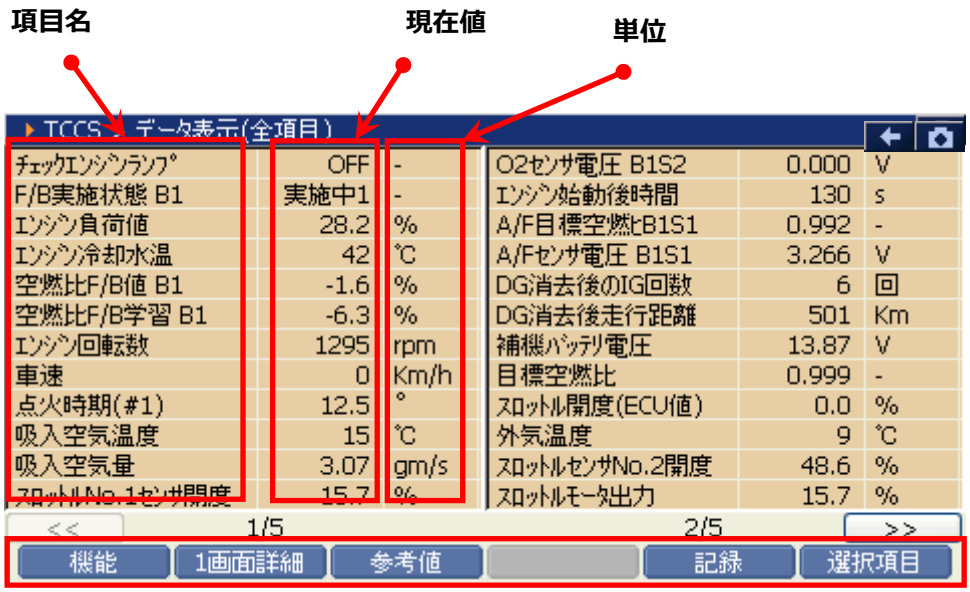
診断機能

1） 診断メニューにおいて『データ表示』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにてデータ表示を選択〉

2） データ表示画面が表示され、リアルタイムなデータが数値で表示されます。

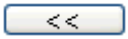


〈図：データ表示画面〉

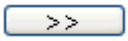
項目名　：　項目名が表示されます。

現在値　：　現在値が表示されます。

単位　：　単位が表示されます。



：　前のページを表示します。



：　次のページを表示します。

：　TC 端子の短絡や、最大最小値のリセットを行います。
【詳細は P80 を参照】

：　1 画面表示に切替えます。【詳細は P78 3）を参照】

：　参考値を表示します。【詳細は P81 を参照】

：　データを記録します。【詳細は P84 を参照】

：　表示する項目を選択します。【詳細は P89 を参照】

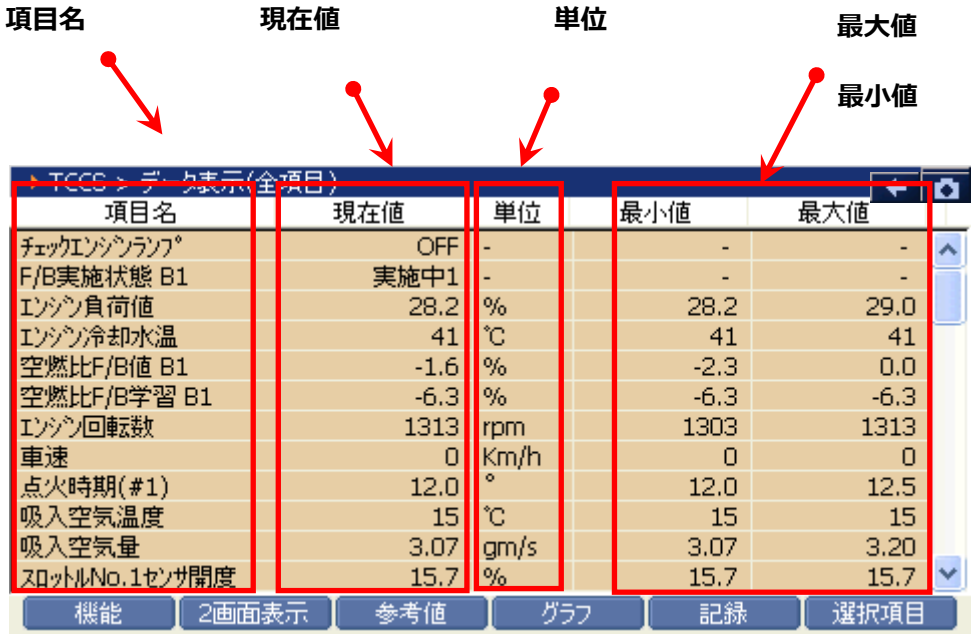
※注意と補足※

表示される項目名は車種、システムによって異なります。

表示項目の詳細に関しては各メーカーのサービスマニュアルをご参照ください。

G-scan Basic をお使いのお客様は、拡張機能をオプションで購入することでデータ表示機能を使用することができます。

3) 1画面詳細 ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押すと 2 画面で表示されていたデータを 1 画面に表示することができます。



〈図：データ表示画面　1 画面表示〉

項目名　：　項目名が表示されます。

現在値　：　現在値が表示されます。

単位　：　単位が表示されます。

最大値/最小値　：　最大値と最小値が表示されます。

機能　：　TC 端子の短絡や、最大最小値のリセットを行います。【詳細は P80 を参照】

2画面表示　：　2 画面表示に切替えます。

参考値　：　参考値を表示します。【詳細は P81 を参照】

グラフ　：　数値で表示されているデータをグラフで表示します【詳細は P82 を参照】

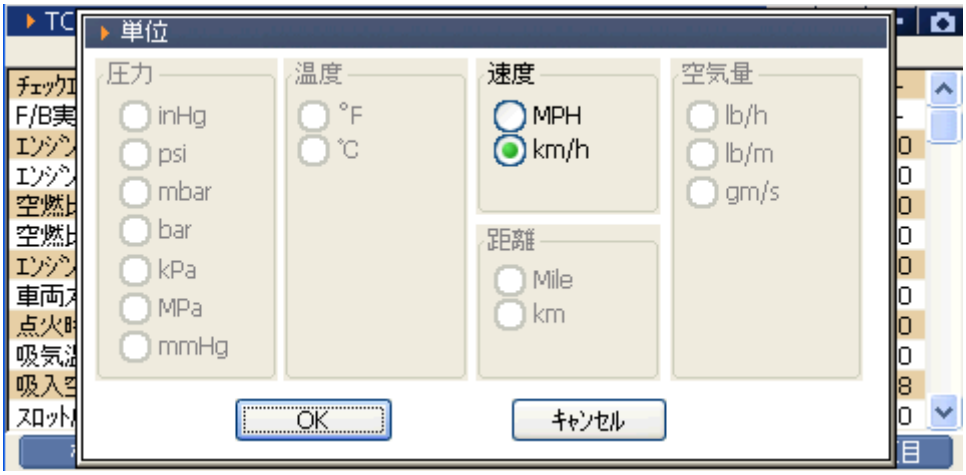
記録　：　データを記録します。【詳細は P84 を参照】

選択項目　：　表示する項目を選択します。【詳細は P89 を参照】

※注意と補足※

- 『圧力』、『速度』、『温度』、『空気量』、『距離』に含まれる項目の場合、単位の部分をタッチすると以下の画面が表示され、単位を変更することができます。

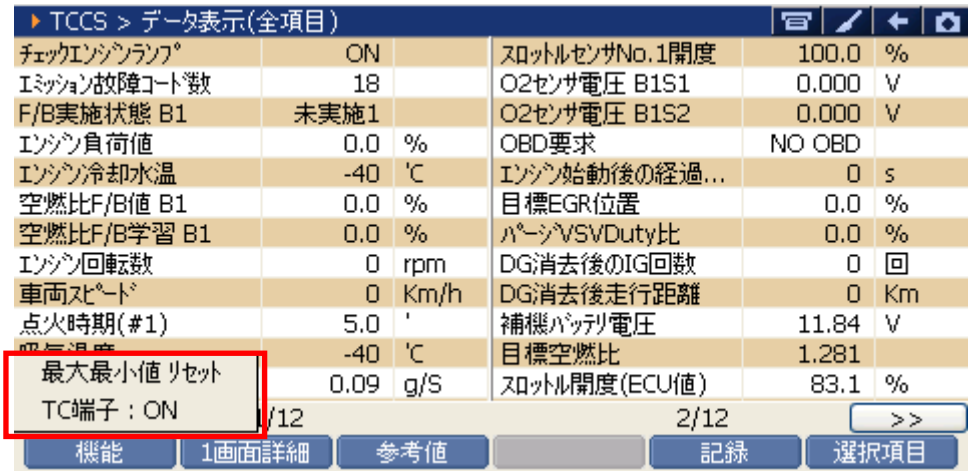
〈図：単位をタッチ〉



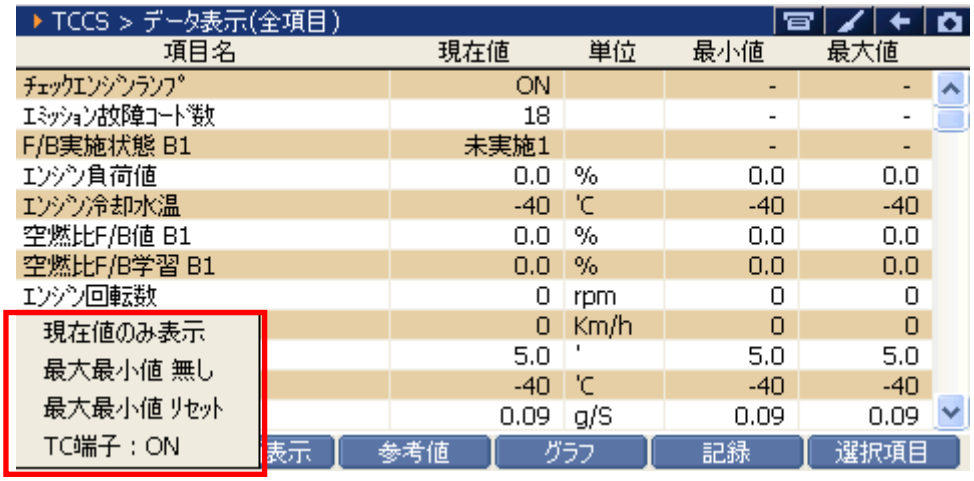
〈図：単位変更画面〉

■ 機能 ボタンの詳細

① 機能 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



〈図：２画面表示状態で機能ボタンをタッチ〉



〈図：１画面表示状態で機能ボタンをタッチ〉

現在値のみ表示 ： 単位、最大値、最小値の列を非表示にします。

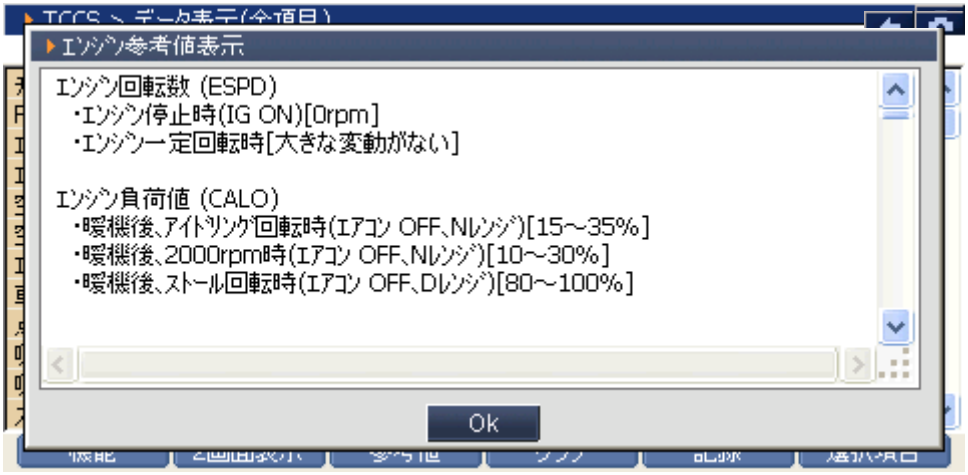
最大最小値無し ： 最大値、最小値の列を非表示にします。
『最大最小値無し』は１画面表示状態のみ表示されます。

最大最小値リセット ： 最大値、最小値をリセットします。

TC 端子 ON ： 『TC 端子 ON』のアクティブ制御を実行します。
TC 端子 ON は TCCS のみの機能です。TCCS 以外のシステムでは表示されま

■ 参考値 ボタンの詳細

① 参考値 ボタンをタッチ、または F3 ボタンを押すと TCCS のエンジン参考値が表示されます。



〈図：参考値表示画面〉

※注意と補足※

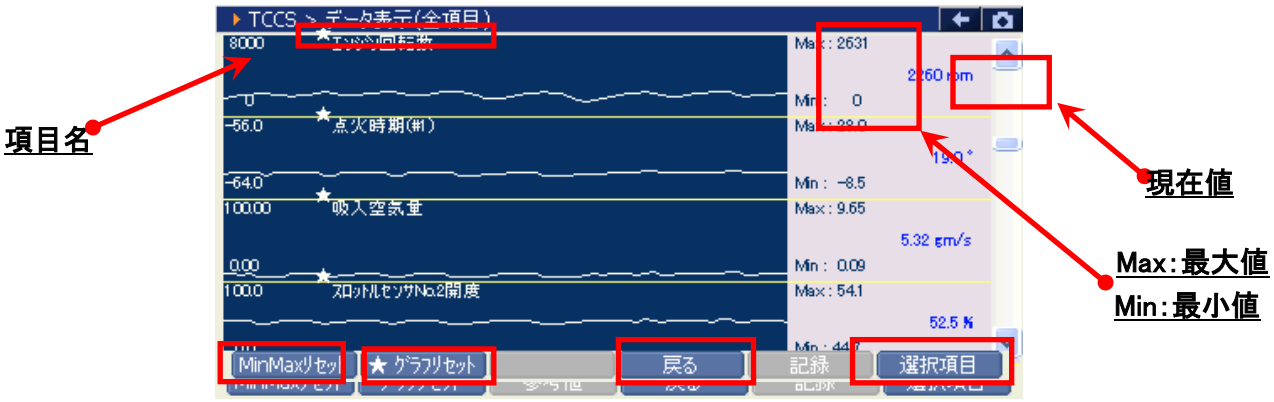
参考値表示はエンジンのみの機能です。エンジン以外のシステムでは 参考値 ボタンは表示されません。

■ グラフ ボタンの詳細

① １画面表示状態で画面下部の グラフ ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと数値で表示されていたデータがグラフで表示されます。

TCCS > データ表示(全項目)
項目名 現在値 単位 最小値 最大値
ﾁｪｯｸｴﾝｼﾞﾝﾗﾝﾌﾟ OFF - - -
F/B実施状態 B1 実施中1 - - -
ｴﾝｼﾞﾝ負荷値 28.2 % 28.2 29.0
ｴﾝｼﾞﾝ冷却水温 41 ℃ 41 41
空燃比F/B値 B1 -1.6 % -2.3 0.0
空燃比F/B学習 B1 -6.3 % -6.3 -6.3
ｴﾝｼﾞﾝ回転数 1313 rpm 1303 1313
車速 0 Km/h 0 0
点火時期(#1) 12.0 ° 12.0 12.5
吸入空気温度 15 ℃ 15 15
吸入空気量 3.07 gm/s 3.07 3.20
ｽﾛｯﾄﾙNo.1ｾﾝｻ開度 15.7 % 15.7 15.7
機能 2画面表示 参考値 グラフ 記録 選択項目

〈図：1 画面表示状態〉



〈図：グラフ表示画面〉

項目名 ： 項目名が表示されます。

現在値 ： 現在値が表示されます。

Max/Min ： 最大値/最小値が表示されます。

MinMaxﾘｾｯﾄ ： 最大値、最小値をリセットします。

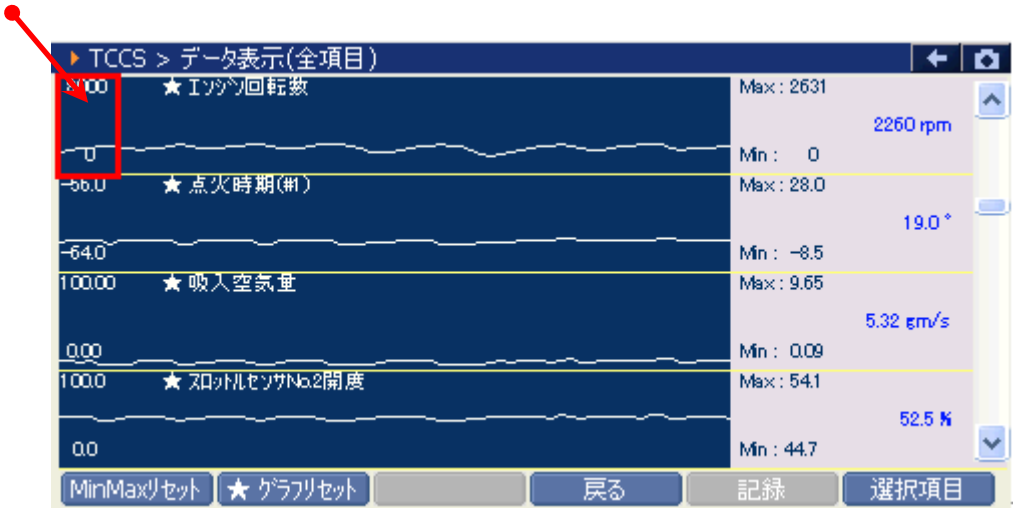
★ ｸﾞﾗﾌﾘｾｯﾄ ： グラフの数値軸の幅を最大値/最小値に合わせて補正します。
【詳細は P83 を参照】

戻る ： 数値表示に戻ります。

選択項目 ： 表示する項目を選択します。【詳細は P89 を参照】

② グラフ表示画面で画面下部の ★ ｸﾞﾗﾌﾘｾｯﾄ ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押すと、グラフの縦軸である数値軸の上下値の幅が、グラフリセットを実行した時点の最大値/最小値に合わせた上下値の幅に補正されます。

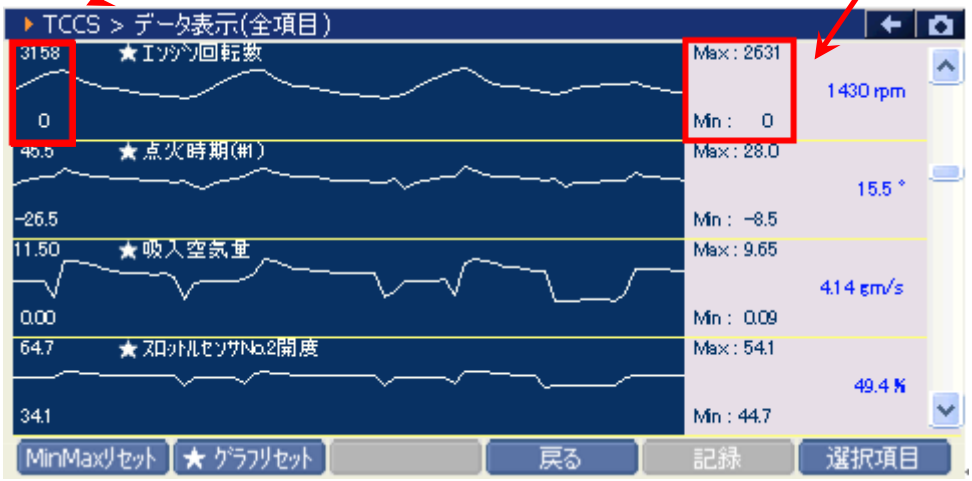
数値軸の上下値の幅



〈図：グラフリセット前〉

最大値/最小値の値に合わせて上下値を補正

最大値/最小値



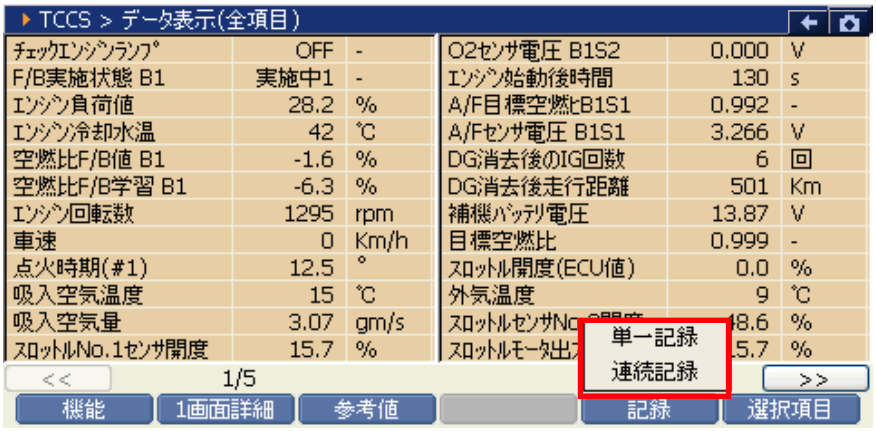
〈図：グラフリセット後〉

※注意と補足※

- グラフリセットは、画面に表示している項目にのみ実行されます。
- 項目名の左に☆印が付いている項目のみグラフリセットに対応しています。
  その他の項目は、グラフリセットを実行しても上下値の補正は行われません。

■ 記録 ボタンの詳細

① 記録 ボタンをタッチ、または F5 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



〈図：2 画面表示状態で記録ボタンをタッチ〉

TCCS > データ表示(全項目)
項目名 現在値 単位 最小値 最大値
チェックエンジンランプ ON - - -
F/B実施状態 B1 未実施1 - - -
エンジン負荷値 0.0 % - -
エンジン冷却水温 -40 ℃ -40 -40
空燃比F/B値 B1 0.0 % 0.0 0.0
空燃比F/B学習 B1 0.0 % 0.0 0.0
エンジン回転数 0 rpm 0 0
車速 0 Km/h 0 0
点火時期(#1) 5.0 ° 5.0 5.0
吸入空気温度 -40 ℃ -40
吸入空気量 0.20 gm/s 0.20
スロットルNo.1センサ開度 100.0 % 100.0
単一記録
連続記録
機能 2画面表示 参考値 グラフ 記録 選択項目

〈図：1 画面表示状態で記録ボタンをタッチ〉

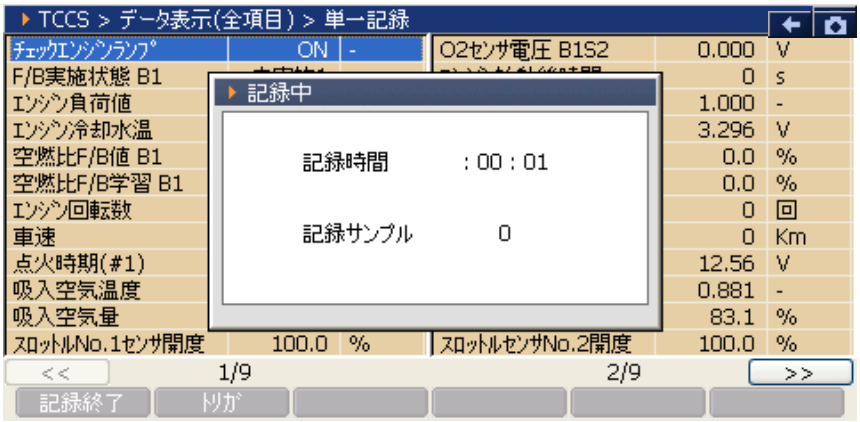
単一記録 ： 1 サンプル分のデータを記録します。【詳細は P85 ②を参照】

連続記録 ： 連続したサンプルのデータを記録します。【詳細は P87 0 を参照】
最大記録時間は 60 分です。

※ 記録できるデータ項目数は最大 200 項目までです。
データ表示項目が 200 項目以上の場合、201 番目以降の項目については記録できません。
201 番目以降の項目を記録する場合は選択項目で記録する項目を選択してください。

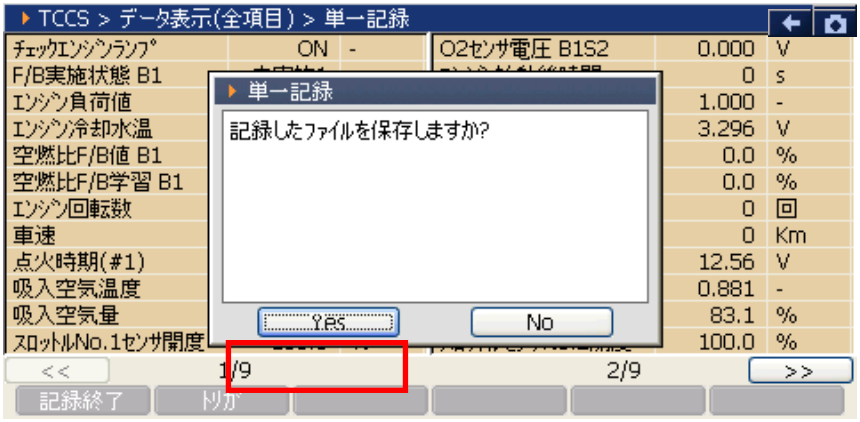
② 『単一記録』を選択すると、データの記録が開始されます。

『単一記録』では 1 サンプル分のデータを記録します。



〈図：単一記録で記録中〉

③ 記録が終了すると以下の画面が表示されます。 Yes を選択してファイルを保存してください。 No を選択した場合、記録したデータは失われ閲覧することはできません。



〈図：記録完了後ファイルの保存確認〉

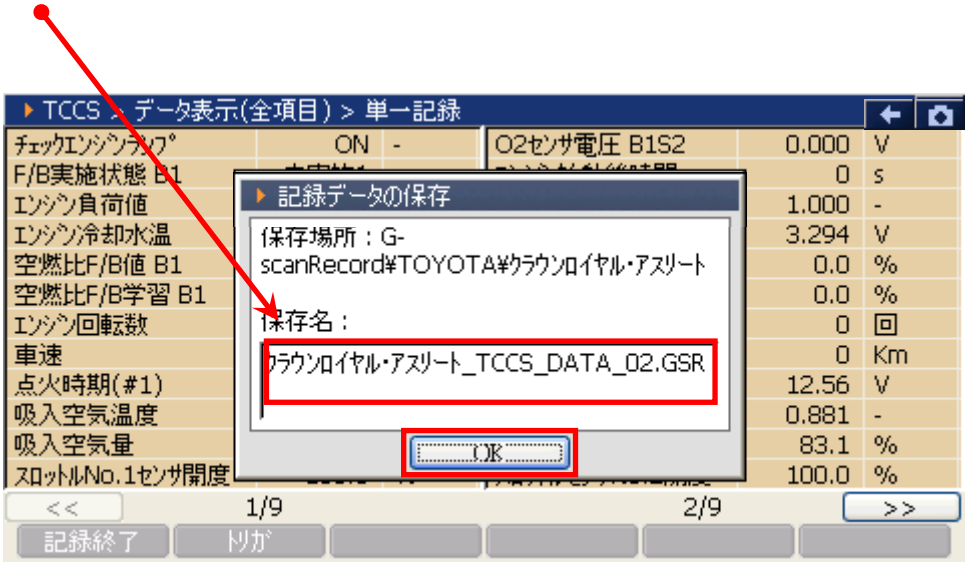
④　保存ファイル名の確認画面が表示されます。

よろしければ、 OK をタッチして記録データを保存してください。

ファイル名を変更する場合は、ファイル名が表示されている部分をタッチすると入力パネルが表示されます。入力パネルを操作してファイル名を変更してください。

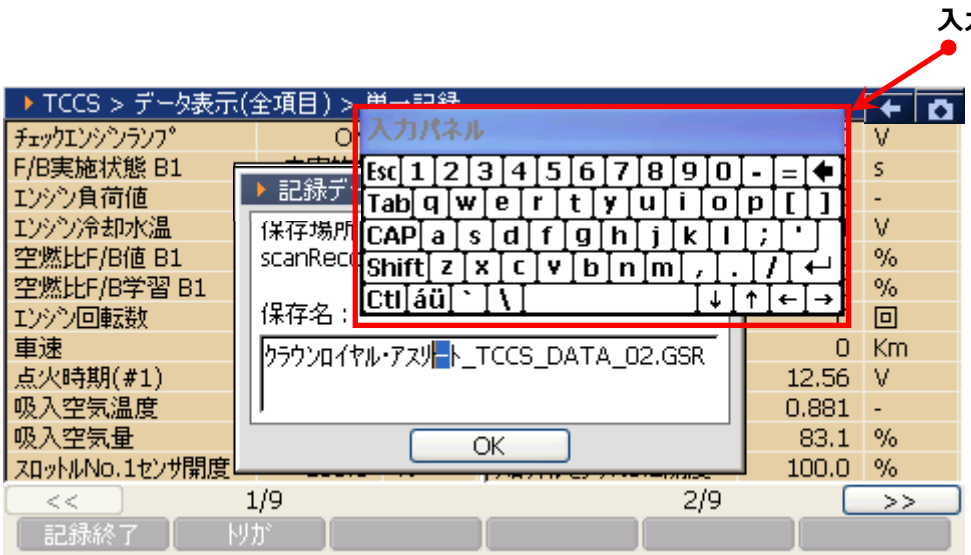
ファイル名を変更する場合は

タッチしてください



〈図：保存ファイル名の確認〉

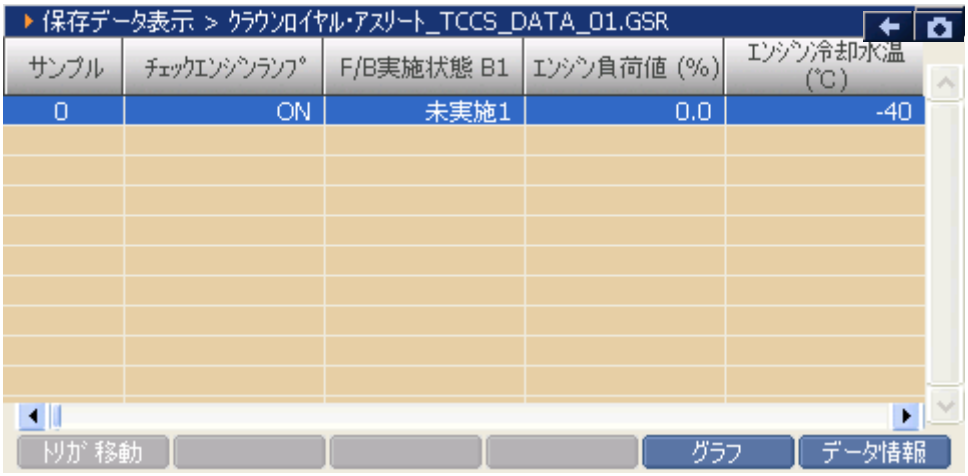
入力パネル



〈図：保存ファイル名の変更〉

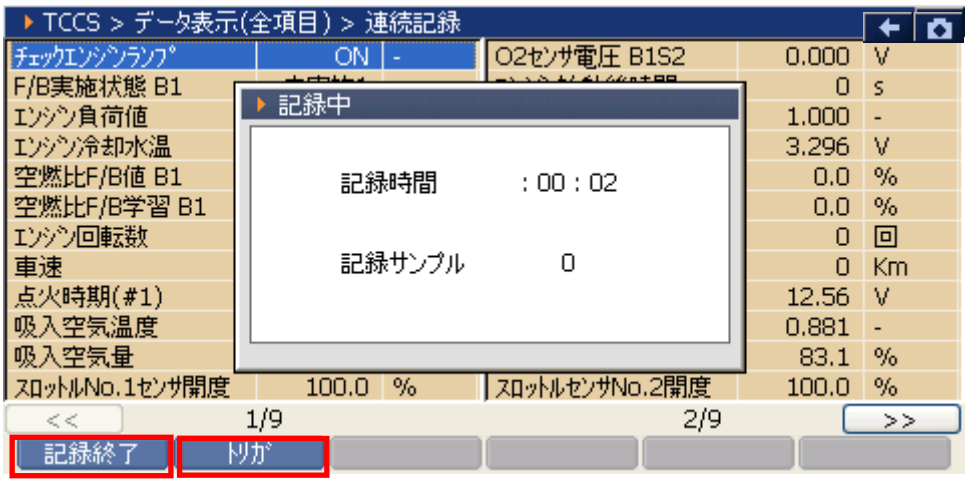
⑤　ファイルの保存が完了すると、記録したデータが表示されます。

詳細に関しては P91 をご参照ください。



〈図：保存データ表示画面〉

『連続記録』を選択すると、データの記録が開始されます。『連続記録』では、連続したサンプルのデータを記録します。

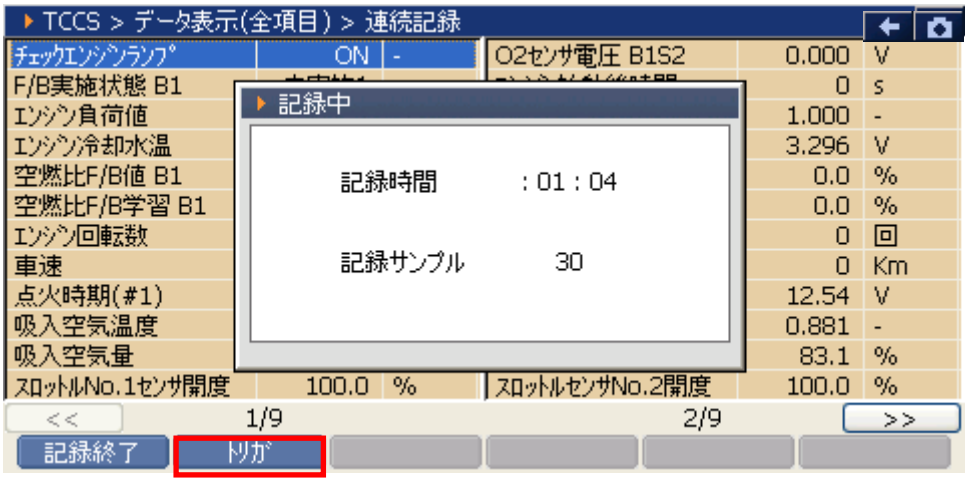


〈図：連続記録で記録中〉

ﾄﾘｶﾞ　　トリガ機能を使用します。【詳細は⑥を参照】

記録終了　　記録を終了します。【詳細は P88 ⑦を参照】

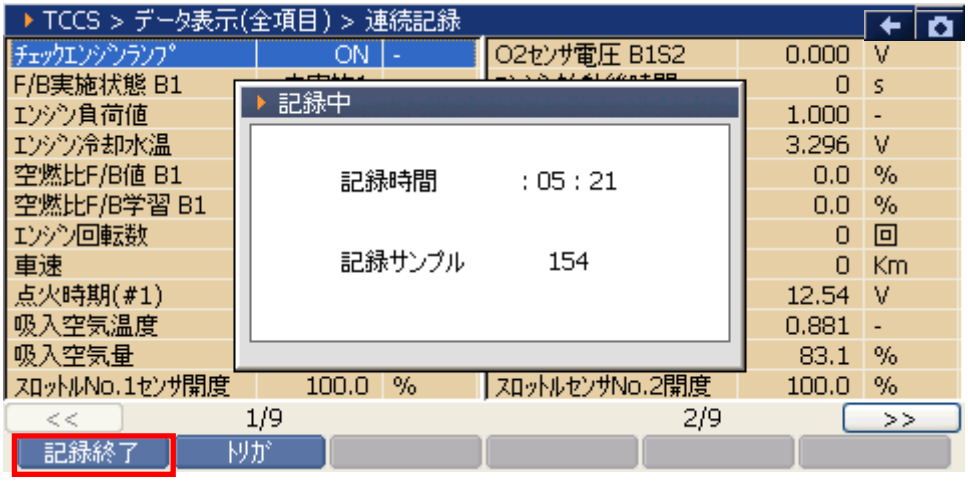
⑥　記録中に トリガ ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押すとトリガ機能を使用することができます。トリガ機能を使用するとトリガ前（-1.-2.-3 サンプル……）、トリガ後（1.2.3 サンプル……）のデータを記録することができます。



〈図：トリガボタンを選択〉

⑦　記録を終了する場合は、記録終了 ボタンをタッチまたは F1 ボタンを押してください。なお、トリガ機能を使用しない場合、記録開始から記録終了まで（0 サンプル～……）のデータを記録します。

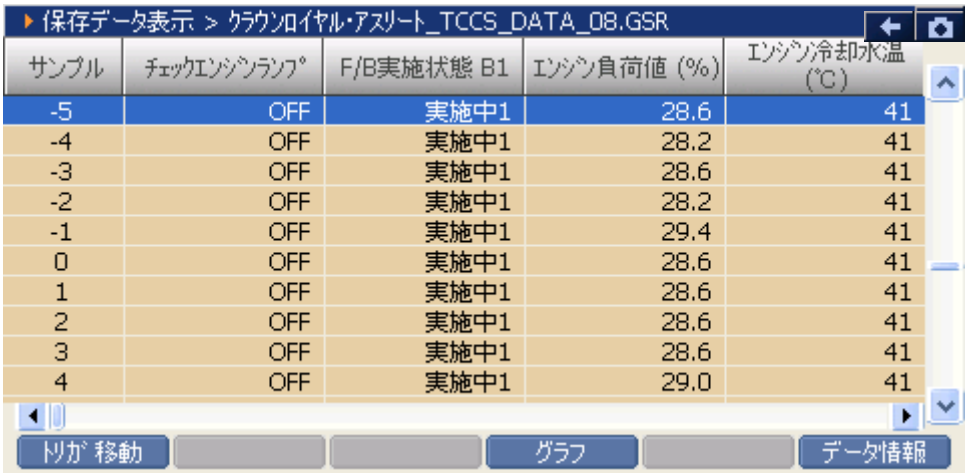
記録終了後、記録したファイルを保存してください。ファイルの保存に関しては P85 ③、P86 ④ をご参照ください。



〈図：記録終了〉

⑧　ファイルの保存が完了すると記録したデータが表示されます。

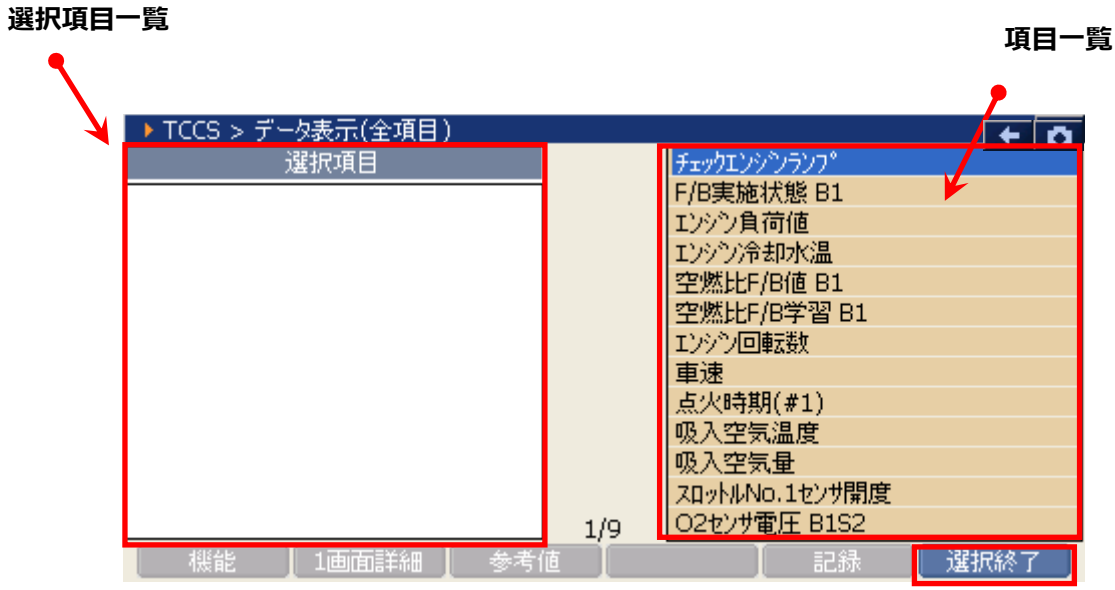
詳細に関しては P91 をご参照ください。



〈図：保存データ表示画面〉

■ 選択項目 ボタンの詳細

①　選択項目 ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。



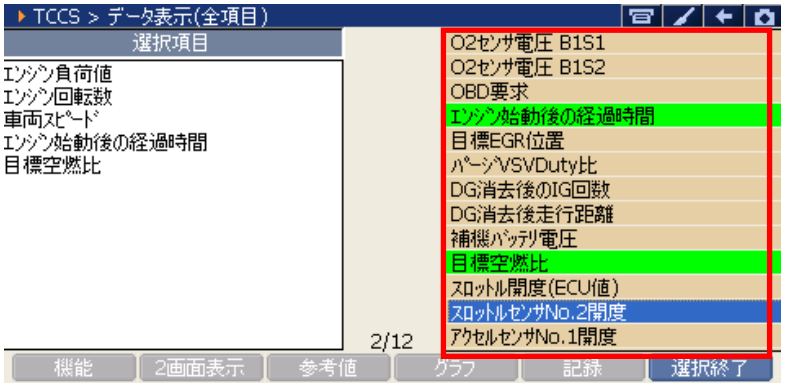
〈図：表示項目の選択〉

選択項目一覧　：　項目名が表示されます。

項目一覧　：　項目一覧が表示されます。

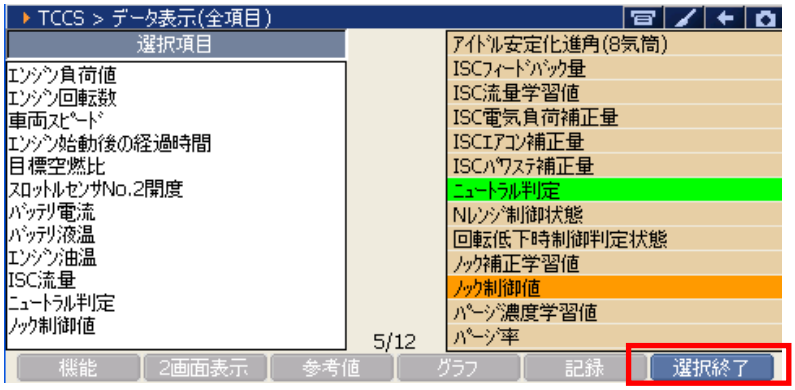
選択終了　：　選択を終了します。

② 項目一覧から、表示する項目を選択します。選択する項目にカーソルを合わせ ENTER ボタンを押して表示する項目を選択してください。 ボタンを押すと次のページを表示します。



〈図：表示項目の選択〉

③ 項目の選択を終了する場合は、 選択終了 ボタンまたは F6 ボタンを押してください。



〈図：選択の終了〉

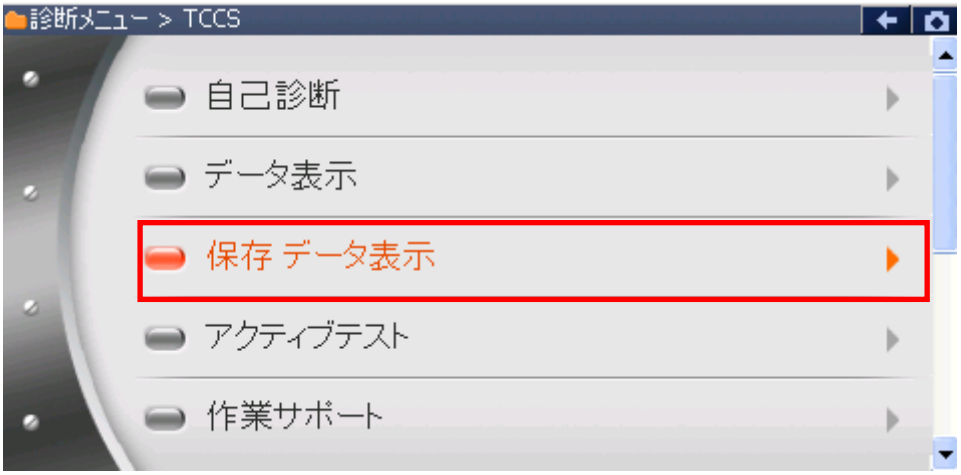
④ データ表示画面に選択した項目が表示されます。全項目の表示に戻す場合は、 全項目 ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押してください。

〈図：選択項目の表示〉

保存データ表示機能

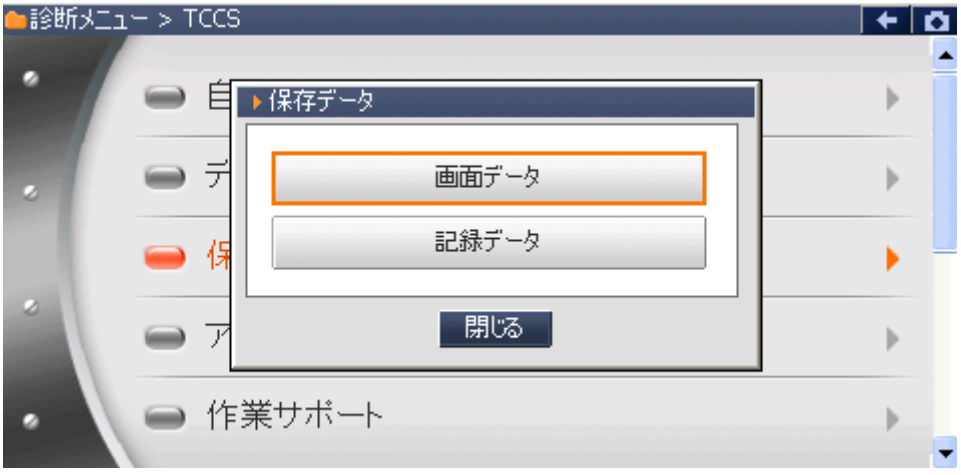
診断機能

1）保存データ表示機能では表示した画面を保存した内容を表示する画面データと、データ表示機能で記録、保存したデータを表示する記録データを選択することができます。診断メニューにおいて『保存データ表示』を選択して ENTER ボタンを押してください。



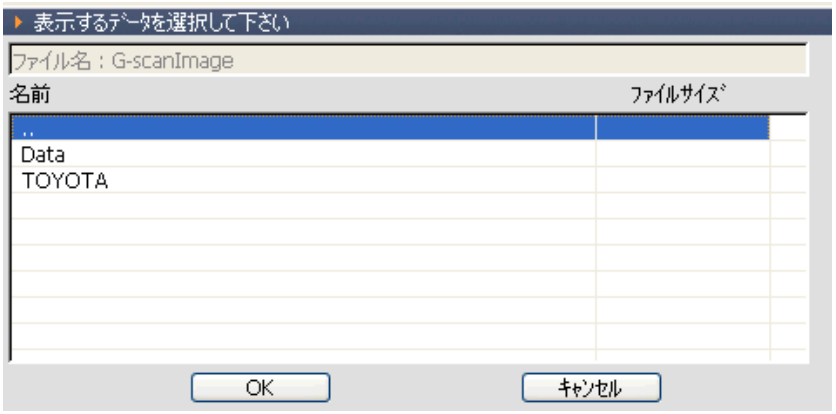
〈図：診断メニューにて保存データ表示を選択〉

2）保存データを選択すると、下記のように表示されます。画面データ、記録データのいずれかを選択してください。次に画面データを選択した場合の説明をします。



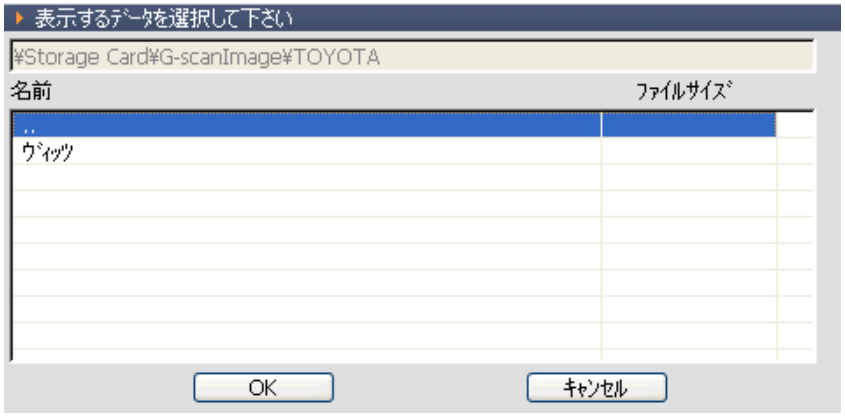
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

3）画面データを選択すると、下記のように表示されます。保存されている画面データのメーカーのフォルダが表示されます。ここでは、TOYOTA を選択した場合を説明します。



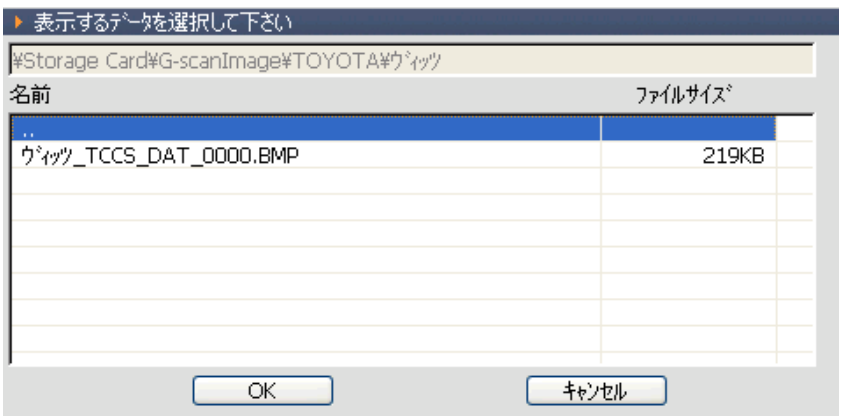
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

4）TOYOTA を選択すると、保存されている車種名のフォルダが表示されます。ここでは、ｳﾞｨｯﾂを選択します。



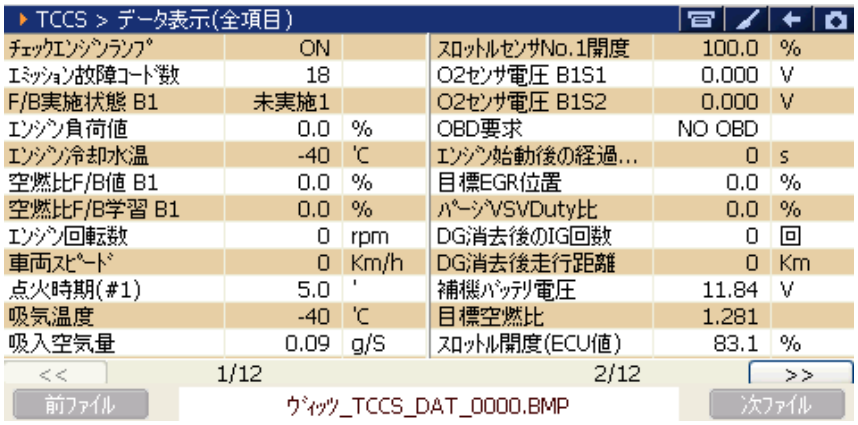
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

5）保存されているデータが表示されます。表示するデータを選択してください。



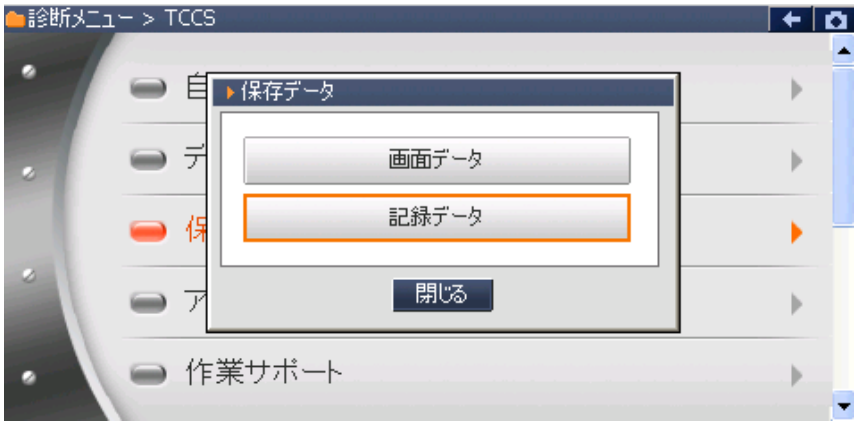
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

6）データを選択すると、下記のように表示されます。



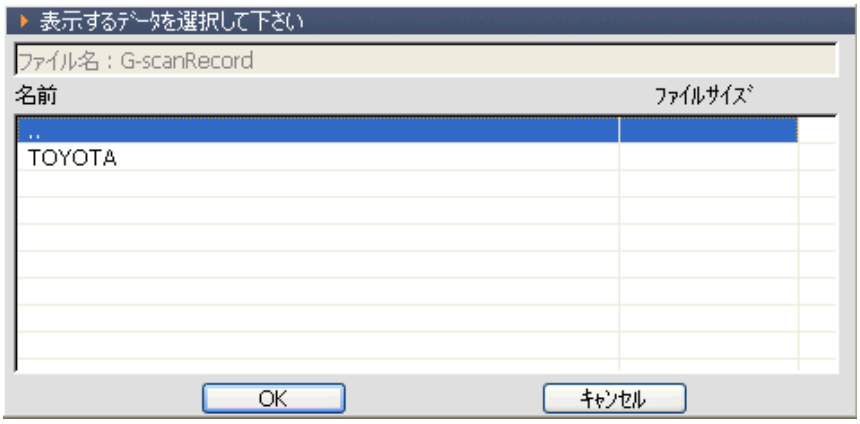
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

7）次に記録データを選択した時の説明をします。記録データを選択してください。



〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

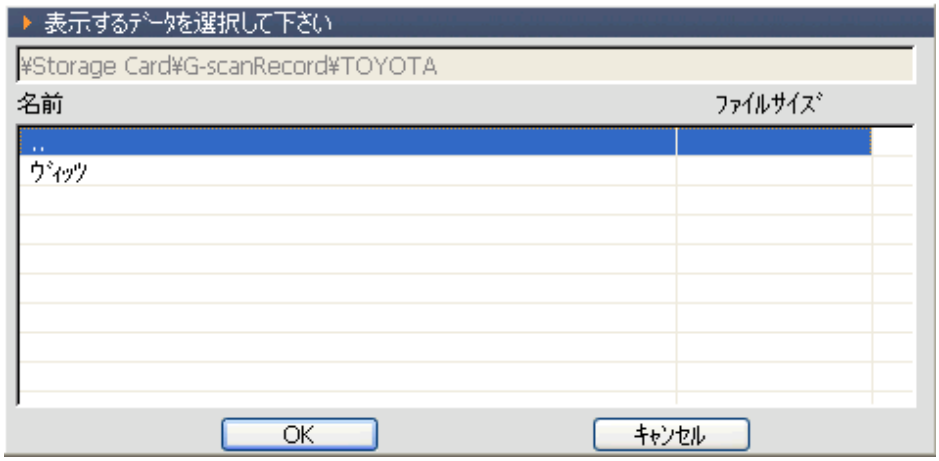
8）フォルダの選択画面が表示されるので、『TOYOTA』フォルダを選択して OK ボタンをタッチしてください。



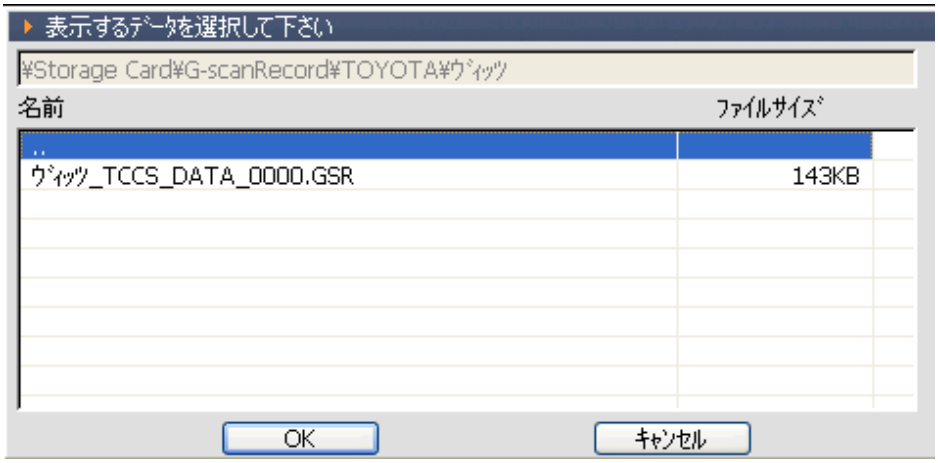
〈図：保存データ表示を選択した後の画面〉

9）車種名が記載されたフォルダの一覧が表示されます。

フォルダを選択して OK ボタンをタッチしてください。更に、保存ファイル名の一覧が表示されます。表示するファイル名を選択して OK ボタンをタッチしてください。

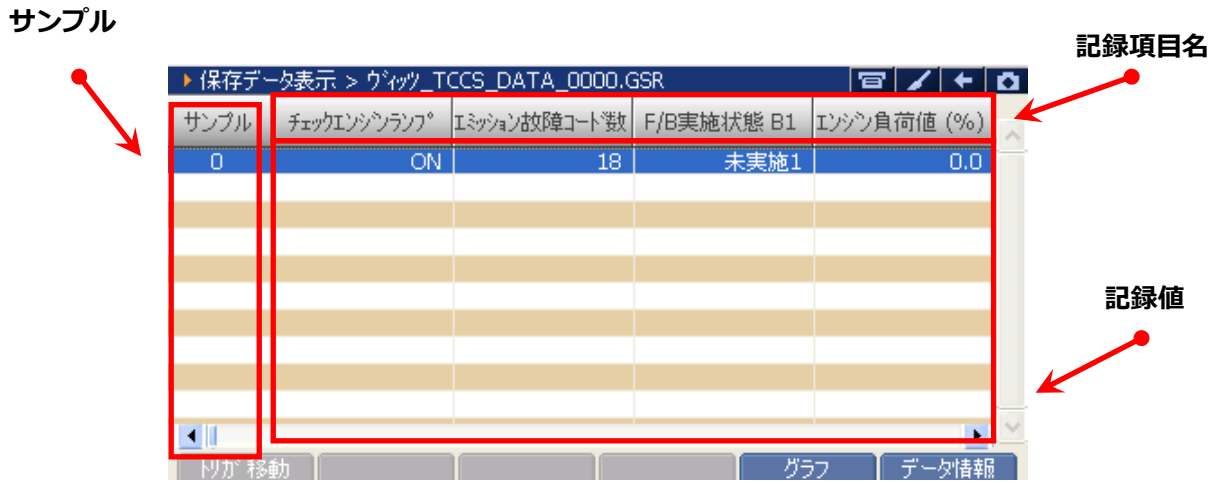


〈図：車種名フォルダの選択〉



〈図：保存ファイル一覧〉

10） データ表示で保存したデータが表示されます。



〈図：保存データ表示画面〉

サンプル ： 記録数が表示されます。

記録項目名 ： 項目名が表示されます。
項目名の部分をタッチすると、横にスクロールした際その項目が固定されます。

記録値 ： 値が表示されます。

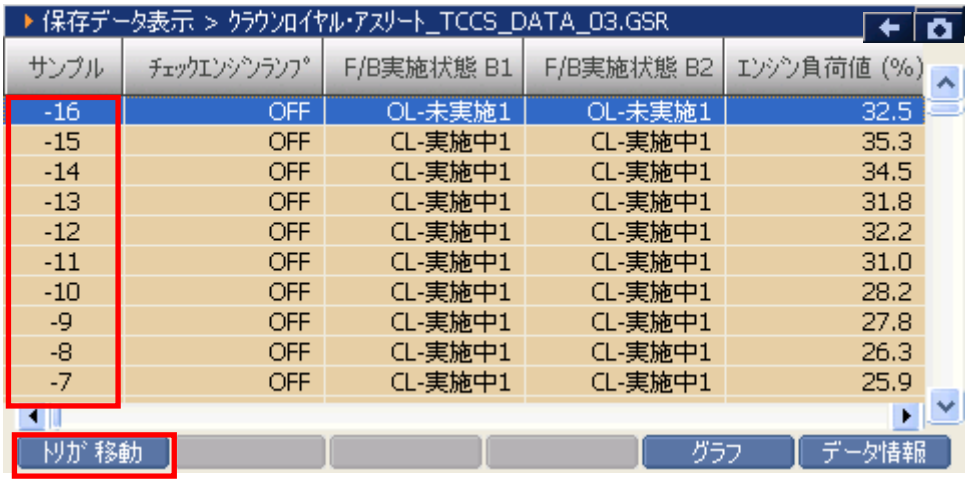
ﾄﾘｶﾞ移動 ： ０サンプル位置に移動します。
【詳細は P96 を参照】

グラフ ： 記録したデータをグラフで表示します。
【詳細は P97 を参照】

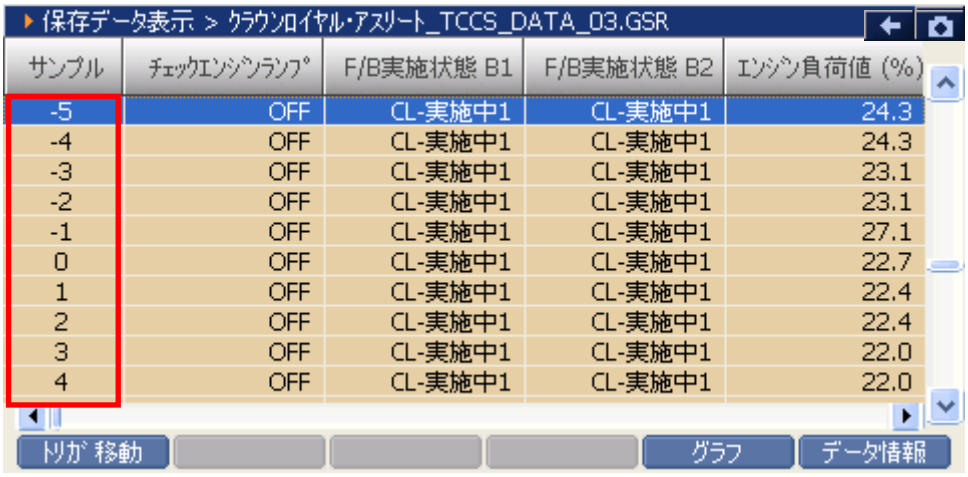
データ情報 ： 保存したデータの情報を表示します。
【詳細は P100 を参照】

■ トリガ移動 ボタンの詳細

① トリガ移動 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押すと０サンプルの位置に移動します。



〈図：トリガ移動ボタンを選択〉



〈図：０サンプル位置に移動〉

■ グラフ ボタンの詳細

① グラフ ボタンをタッチ、または F4 ボタンを押すと数値で表示されていたデータがグラフで表示されます。

〈図：記録データのグラフ表示〉

項目名 ： 項目名が表示されます。

記録値 ： カーソル A 上の値が表示されます。

Max/Min ： 最大値、最小値が表示されます。

< / □ ： グラフを左に送ります。

> / □ ： グラフを右に送ります。

+ ： グラフを拡大します。

- ： グラフを縮小します。

リスト表示 ： 数値表示に戻ります。

グラフ機能 ： グラフ機能を使用します。【詳細は P98 ②を参照】

② グラフ機能 ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すと以下の画面が表示されます。

〈図：グラフ機能の詳細〉

表示項目 ： 表示する項目を選択します。【詳細は③を参照】

カーソル A 移動 ： コントロールをカーソル A に移動します。【詳細は P99 ④を参照】

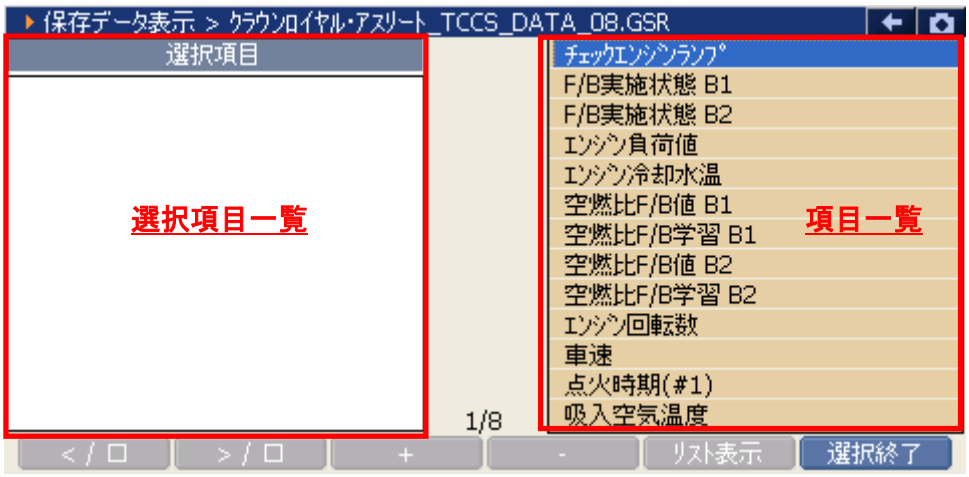
カーソル B 移動 ： コントロールをカーソル B に移動します。【詳細は P99 ⑤を参照】

トリガ移動 ： カーソル A をトリガ位置（0 サンプルの位置）に移動します。

MinMax ﾘｾｯﾄ ： 最大値、最小値をリセットします。

データ情報 ： 保存したデータ情報を表示します。【詳細は P100 ①を参照】

③ 『表示項目』を選択すると以下の画面が表示されますので、項目一覧から表示する項目にカーソルを合わせ ◀▶ ボタンを押して表示する項目を選択してください。 ENTER ボタンでページ移動します。最大で 12 項目を選択可能です。

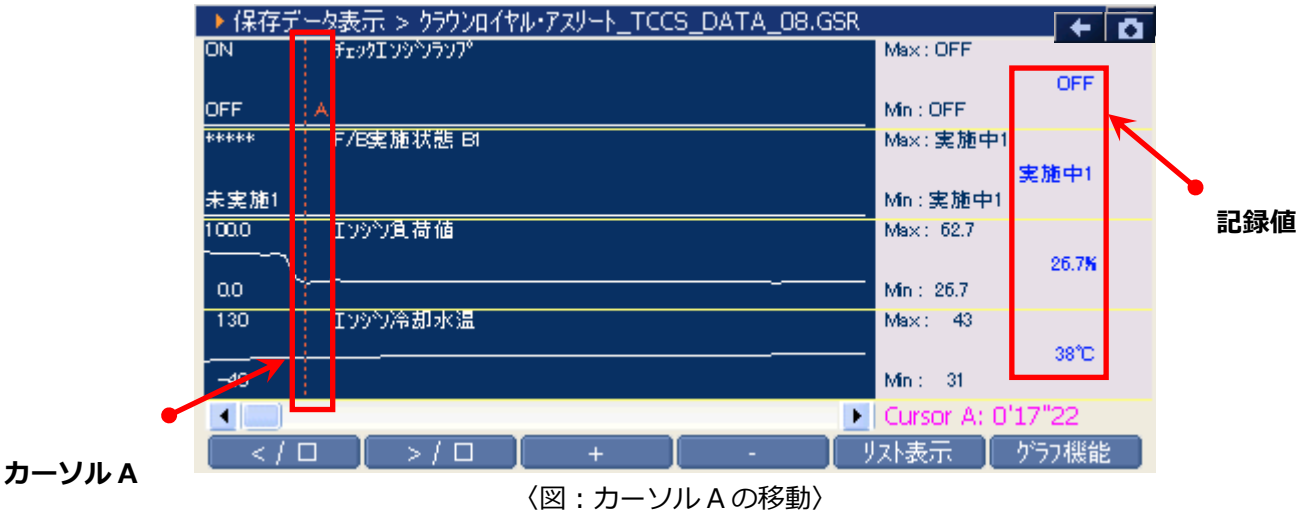


〈図：表示項目の選択〉

④　『カーソル A 移動』を選択するとカーソル A にコントロールが移ります。

ボタンを押して、カーソル A を移動させてください。

カーソル A 上にある値が記録値に表示されます。

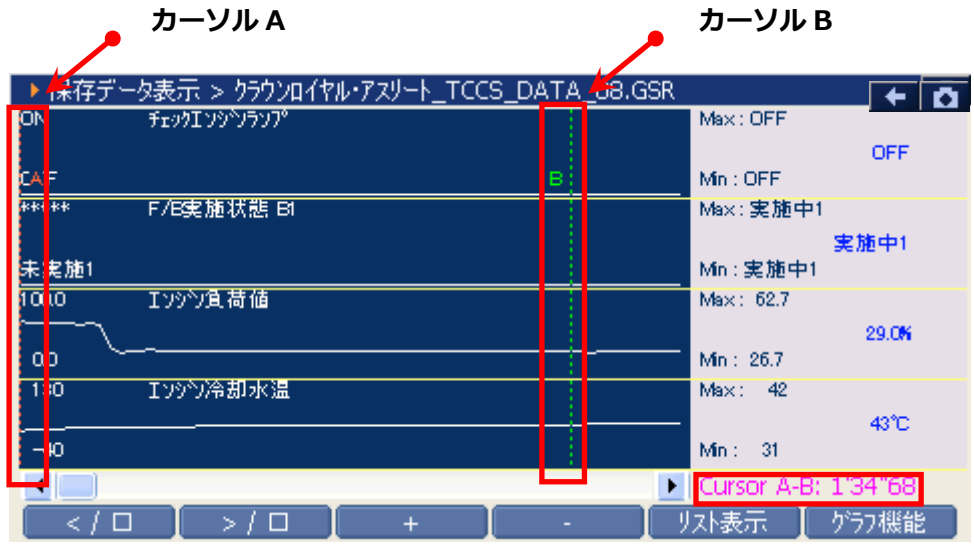


〈図：カーソル A の移動〉

⑤　『カーソル B 移動』を選択するとカーソル B にコントロールが移ります。

ボタンを押して、カーソル B を移動させてください。

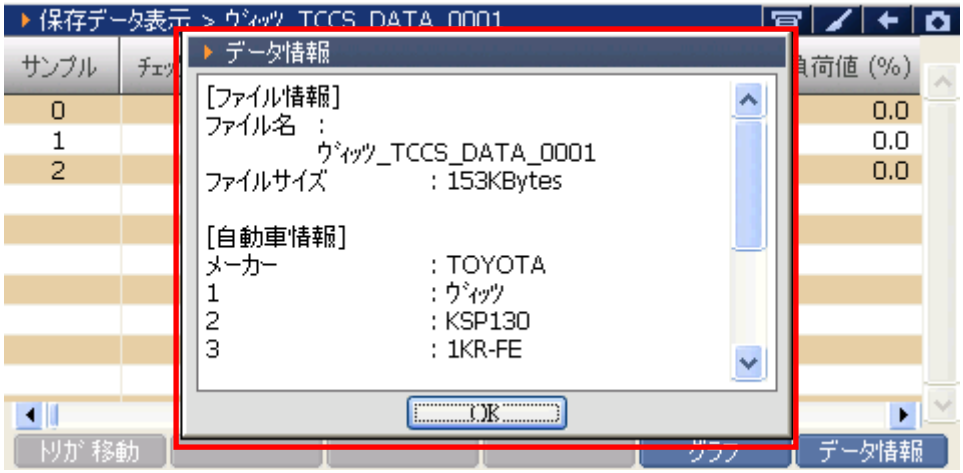
画面右下にカーソル A からカーソル B までの時間が表示されます。



〈図：カーソル B を移動選択〉

■ データ情報 ボタンの詳細

① データ情報 ボタンをタッチ、または F6 ボタンを押すか、グラフ機能 内の『データ情報』をタッチするとデータ情報画面が表示されます。データ情報画面では現在表示している保存データの詳細を表示します。



〈図：データ情報画面〉

G-SCAN　アクティブテスト機能

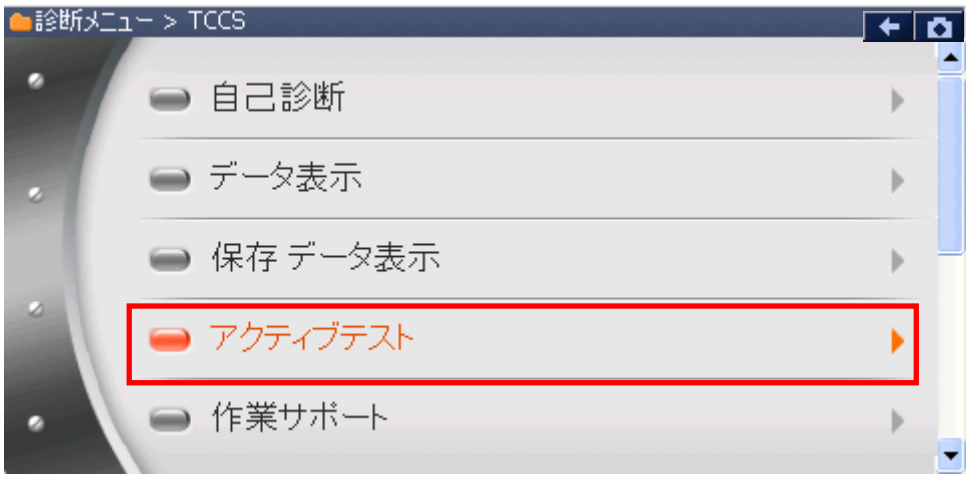
診断機能

⚠ 警告

- アクティブテストは各メーカーのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。
- アクティブテストを実行する場合は必ず車両を以下の状態にしてください。
  車両をこの状態にできない場合はアクティブテストを実行しないでください。
  1．車両停止状態。（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）
  2．ブレーキペダルを踏込む。
  3．ギア位置はＰレンジまたはＮレンジにする。

以下ではトヨタ車を例にアクティブテスト機能をご説明します。

1）診断メニューにおいて『アクティブテスト』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにてアクティブテストを選択〉

2）アクティブテスト画面が表示されます。

〈図：アクティブテスト画面〉

テスト条件表示　：　テスト条件が表示されます。

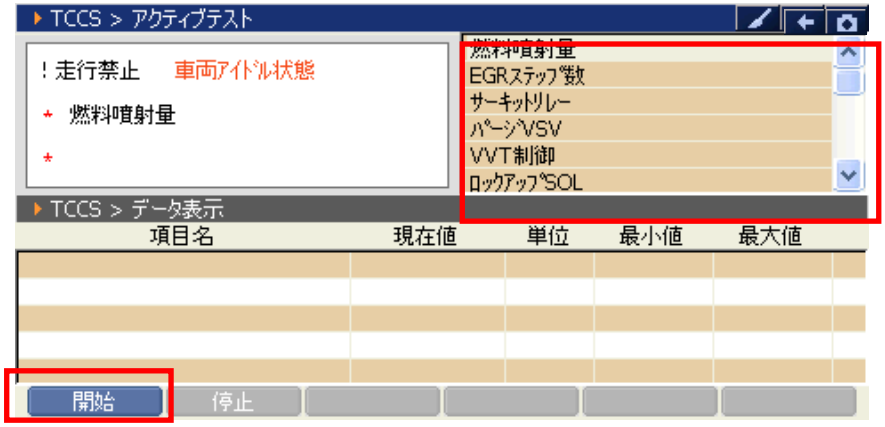
テスト状態表示　：　テスト状態が表示されます。

項目一覧　：　アクティブテスト項目の一覧が表示されます。

データ表示部　：　アクティブテスト中のデータが表示されます。

開始　：　アクティブテストを開始します。

3）アクティブテスト項目一覧の中から実行する項目を選択して、開始 ボタンをタッチ、または F1 ボタンを押してください。



〈図：アクティブテスト開始〉

※注意と補足※

- 実行できるアクティブテスト項目は車種、システムによって異なります。
  詳細に関しては各メーカーのサービスマニュアルをご参照ください。

4）アクティブテストが開始されます。アクティブテスト実行ボタンを操作してアクティブテストを行ってください。アクティブテストを停止する場合は 停止 ボタンをタッチ、または F2 ボタンを押してください。

〈図：サーキットリレー　アクティブテスト実行例〉

※注意と補足※

- G-scan Basic をお使いのお客様は、拡張機能をオプションで購入することでアクティブテスト機能を使用することができます。
- 4）の画面はサーキットリレーのアクティブテスト実行画面です。アクティブテスト実行ボタンに表示される内容は実行するアクティブテストによって異なります。
- アクティブテストにはテスト条件がある項目があります。テスト条件を満たさないでアクティブテストを実行した場合は、テスト状態表示部に『テスト失敗』と表示されます。その場合はアクティブテストのテスト条件を確認してから、再度アクティブテストを実行してください。

アクティブテストの一般的なテスト条件

1. 車両停止状態。（パーキングブレーキをかける）
2. ブレーキペダルを踏込む。
3. ギア位置は P レンジまたは N レンジにする。

作業サポート機能

診断機能

警告

- 作業サポートは各メーカーのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。
- 作業サポートを実行する場合は必ず車両を以下の状態にしてください。

  車両をこの状態にできない場合は作業サポートを実行しないでください。

  1．車両停止状態。（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）

  2．ブレーキペダルを踏込む。

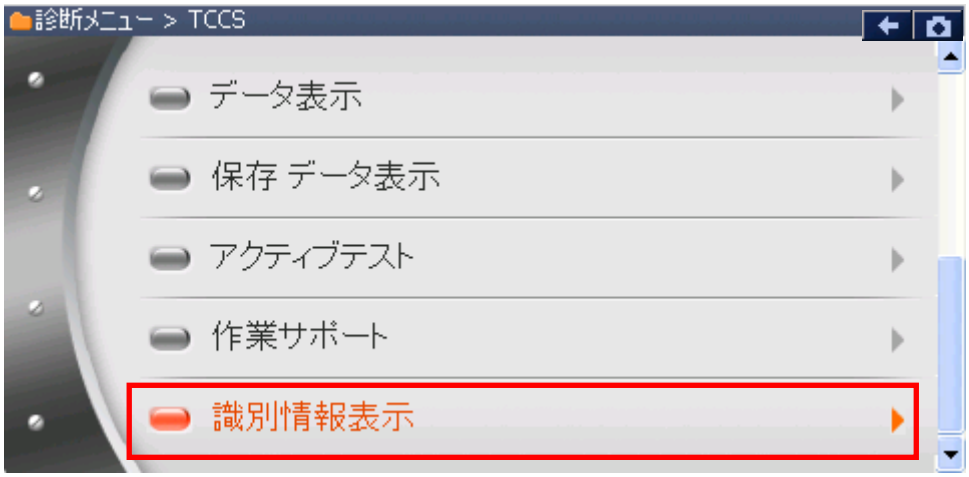
  3．ギア位置はＰレンジまたはＮレンジにする。

作業サポートの対応項目や具体的な作業内容は、各メーカーの取扱説明書または g-scan.jp をご覧ください。
メーカー独自の機能（例:サービスリセット）は、各メーカーの取扱説明書をご覧ください。

識別情報表示機能

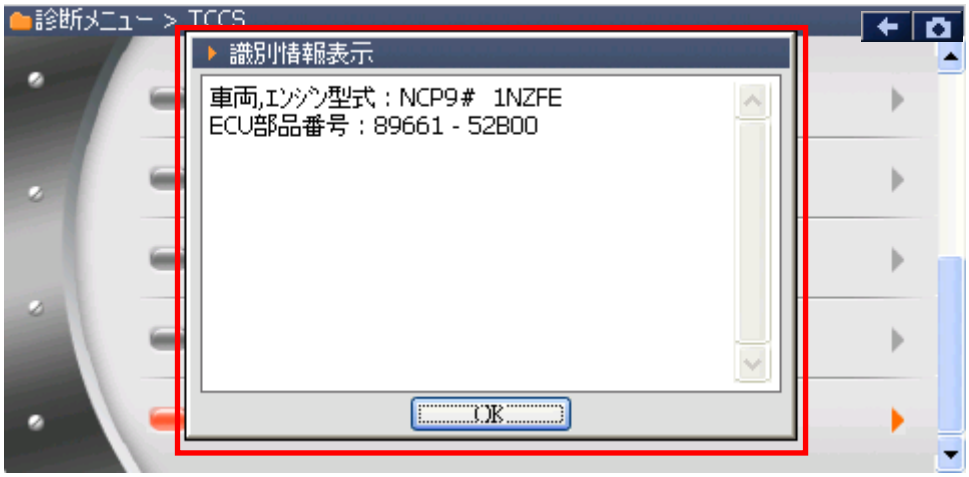
診断機能

1） 診断メニューにおいて『識別情報表示』を選択して ENTER ボタンを押してください。



〈図：診断メニューにて識別情報表示を選択〉

2） 識別情報が表示されます。



〈図：識別情報表示画面〉

消耗品の交換方法

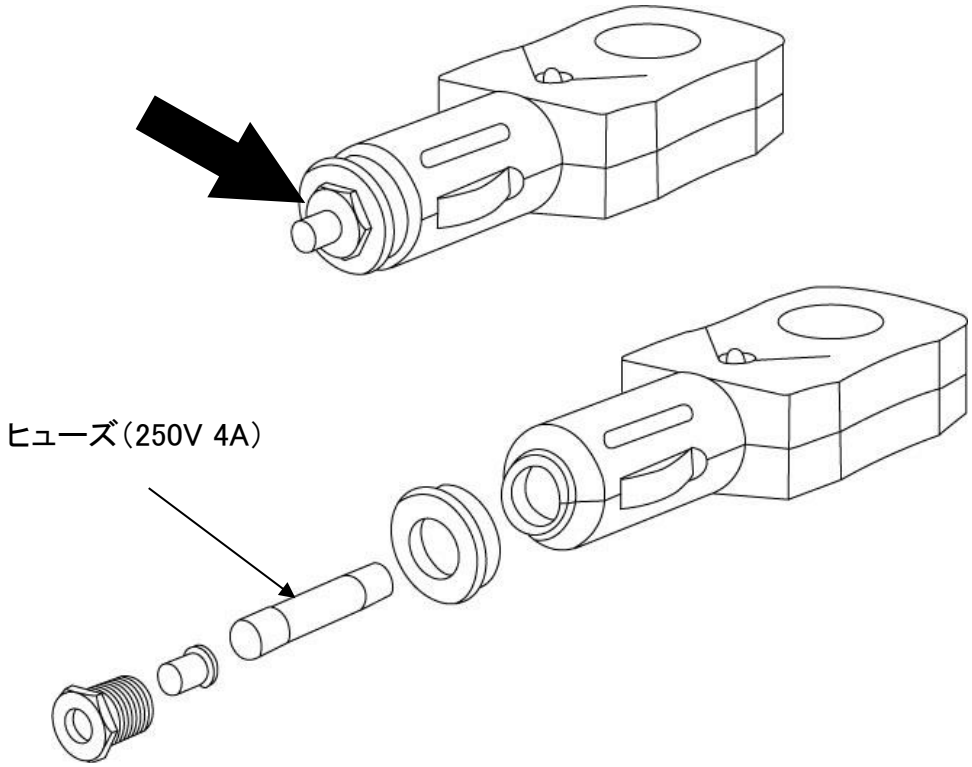
シガライター電源ケーブル 107

G-SCAN　シガライター電源ケーブル

消耗品の交換方法

シガライター電源ケーブルのヒューズが切れてしまったときの交換方法をご説明します。

1） 10mm の 6 角型スパナを使用して、反時計回りに回転させてください。
　　下図のように分解されます。



〈図：シガライタケーブルの分解方法〉

2） ヒューズ（250V 4A）を交換した後、分解とは逆の順序で組み立ててください。

〒310-0836

茨城県水戸市元吉田町 329-5

Tel　029-248-0616　　Fax 029-248-1609

http://www.g-scan.jp

製品保守センター

（製品のご相談・ご質問はこちら）

Tel 029-304-0185

受付時間： 10:00～17:00

受付日： 月曜日から金曜日

(弊社休業日および祝祭日を除く）

2014 年 8 月発行　　第 21 版

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。

G1PZFDN001-1-21